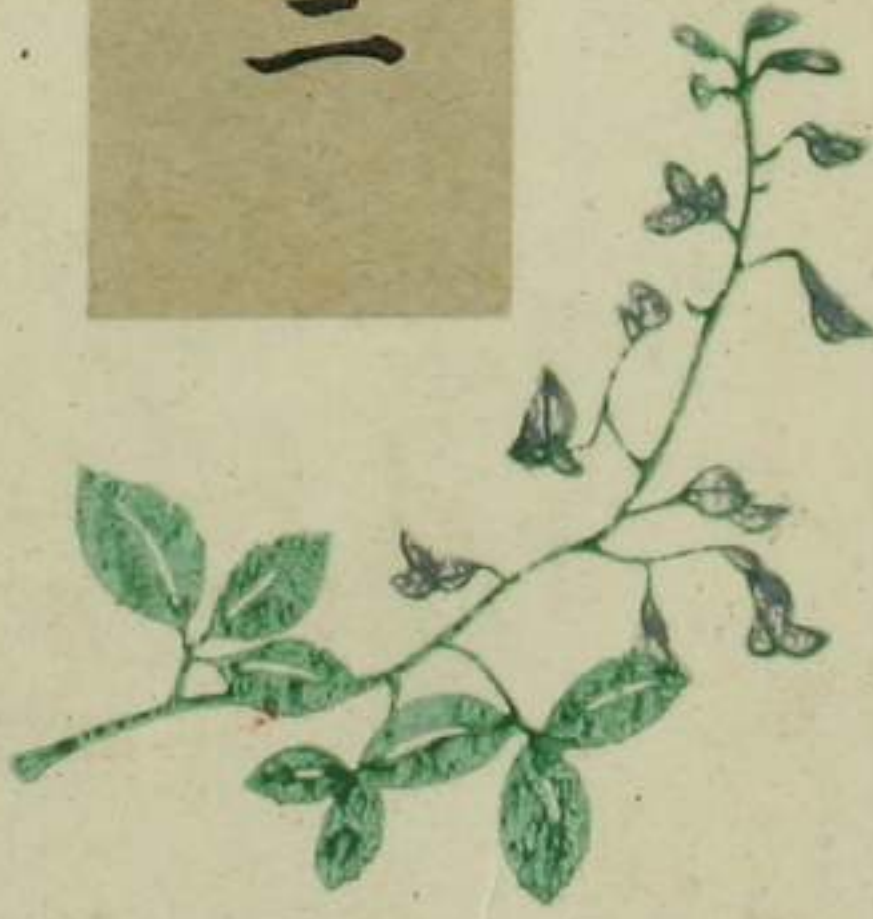


八江菼名所畵

二



ル 4

3643

2



門 凡 4  
3643  
卷 2

八江款名所圖画二之卷

目錄夏之部上

倉江歸帆

同古園

同新園

鏡江秋月

觀音院

玉江秋月

同古畵

同新圖

玉江大河之總圖

五鬼權現社

天狗拍子之畵

梅屋敷之圖

光山寺

楞嚴菴

晒場之圖

金輪寺

面影山

櫻江暮雪

同古圖

同新圖

同渡場之畵

大照院

同總畵

高月院

清心院

道樹院

崇觀音堂之畵

昭和廿三  
二月二十日

小松江晚鐘 同古画 同新画 古川筋

西法寺 橋八幡宮 同圖

長門の守へ白雉を献する圖 永福寺

西福寺 福昌寺 茶臼山

以上目錄參拾九條

八江菽名所圖画二之卷

本梨恒充 著述

陸奥山夏之部上 山縣篤藏 補正

倉江歸帆 八江瀨城八勝の一より眺望殊に杜谿の地

より高東風の長閑に吹出れ八島根に波の花をらしし雲

の上は鳴く郭公ハ夕や早くすたておもひをのこに金風

乃涼しく立てハ初汐は磯への松をあふ行帰る釣舟ハち

ア一々る落葉うとまりい漕よよる大舶の帆ハ雪うともれ

もろろへくいていしあねさるめなりととど四方の風

流士ときさるるはして是を賞翫せぬハあ

地挹遠天三面開水漫數鳥一帆回倉江風熟潮生駛  
疑是仙槎銀漢來

原欽

をさふや浪もひらくみくろをよりむてゆりゆり春貞

因に云昔は地ハ沖城山の尾今の鼻のりのおまを終に瀬のかよひちのこ  
うてひらくみくろをよりゆりゆり大河とるゆね是ハ吉川家より  
上へのは馳走の堀をせられゆりゆり

鏡江秋月 いみへ八重萩八景の一として玉江川尻の所

ありといへり

潮音山觀音院 玉江浦町の中程にあり臨家の禪刹あり

て洞春寺の派中なり本尊釋迦如来ハ金銅佛の唐作とい

三

ふ開山不見別當の草建よて大同年間なりといひ傳ふ  
就中破壊して久しく絶つるを永祿年中一傳得公座元  
和尚これを再建す是則中興なり

觀音堂 本堂の右にあり本尊觀世音ハ市中七觀音の内第一番とす縁起  
よ日むろし當所の浦人漁りせんと沖に出て網を入ると忽ち浪

ささき舟をとりにて海底より瑞光現れりこそ奇怪なりとて網を引揚  
るれハ金銅觀音の靈像を得たり即て家よりつらふはよりを  
語り々れハ村長等奇持のこころなりとて則  
當所ハ草舎をいれこれに信心怠らざるべし云

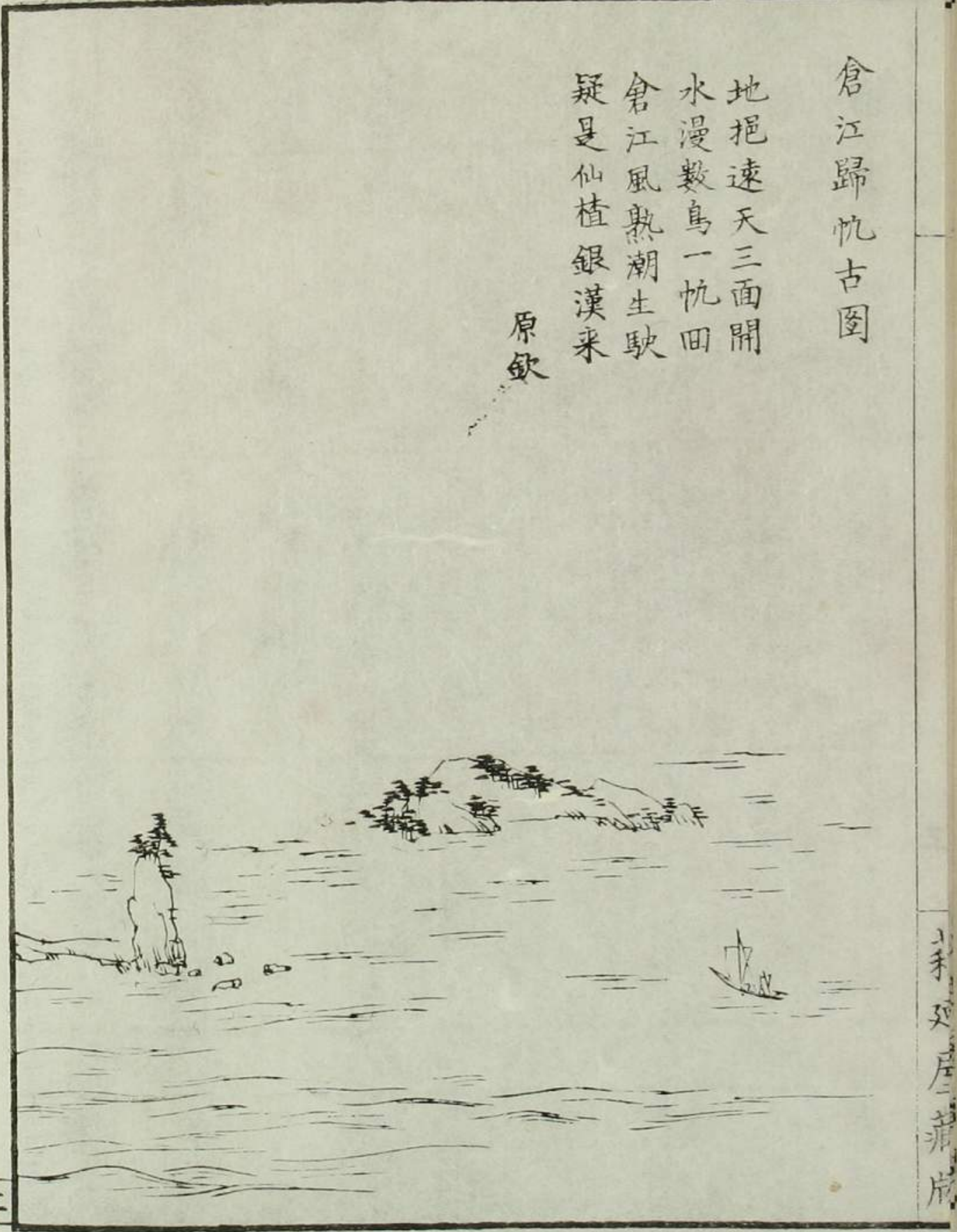
玉江秋月 八江萩八勝の一として殊に葉月の比ハ詞人

吟客こころを羣游して月を賞翫ふ陸より行りのあれを  
舟に乗り出るとあり清風徐に吹き来て連波岸を濯ふ

倉江歸帆古圖

地挹速天三面開  
水漫數島一帆回  
倉江風熟潮生駛  
疑是仙槎銀漢來

原欽



新刻屋藏版

三

春舟

春舟

春舟

春舟

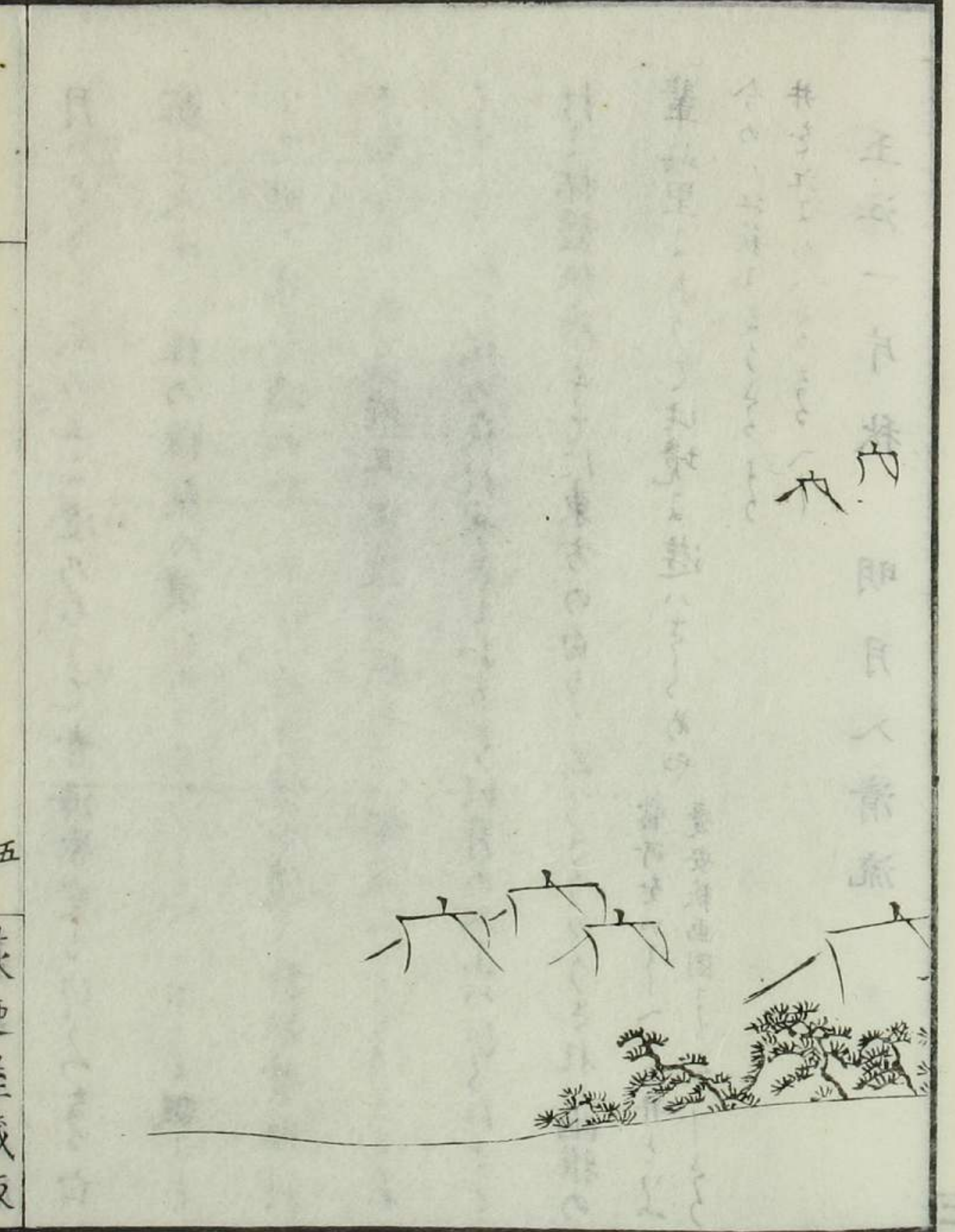
春舟

春舟



三十九  
四  
新刻屋藏版

三十九  
五  
上  
火  
西  
屋  
藏  
版



三  
和  
文  
屋  
藏  
版

月ハるる尾の上ニ澄乃ちりて青海原空もひくつる白  
 露と水光と桂の權蘭の漿おのろりく上り下り飄々と  
 して世の塵を遁れ渺々として憂き懷を遺る詩歌管絃は  
 さめくさあるハ催馬樂筑紫風あるハ鄙風みやこつとされ  
 てもことよみて秋の夜は永きもおりを以月の入ふはひりけよと  
 けし杯盤狼藉きてに東方の白うもあつらうりされハ幽雅の  
 輩此里ニありては境ニ遊ハさうめや  
當所をいへハ玉井とよ  
 慶安萩画圖もさうり  
 今のハ江萩ニありさうより  
 井を江ニかくさるるへ

玉江一片秋 明月入清流

夜静人回首 漁村烟霧収 原欽

ほのろくゆるかけさへふむをみるさうりの秋の夜月 春貞

五鬼權現社 同所浦町より二三丁を隔て南ニありより二丁は

うりの石壇を乃ちりて山の中腹ニあり号けて權現山といふ

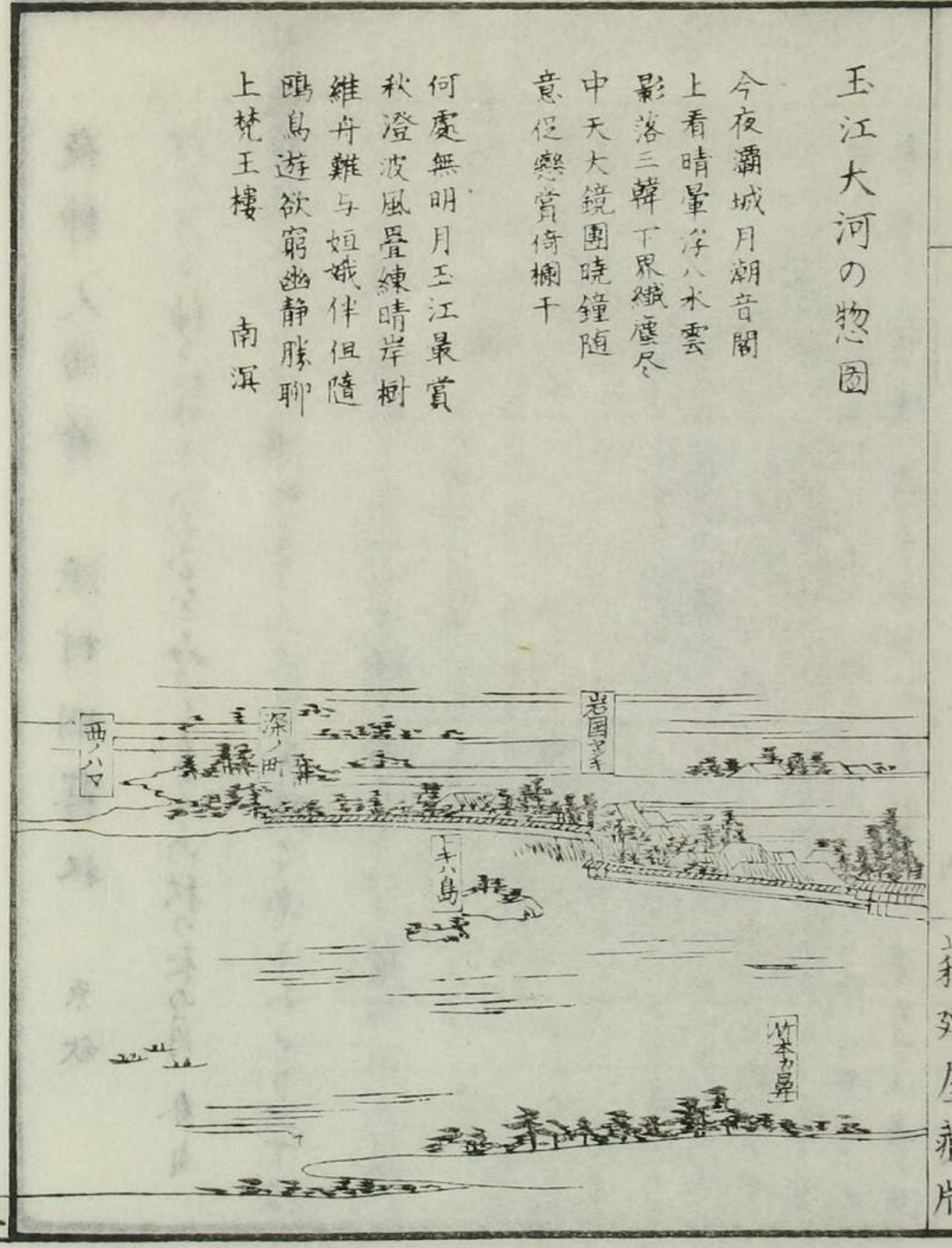
天狗拍子の舞

五鬼權現の祭事ニ執行す是ハいつの比より起りりと  
 云といふさうりねと古老の物語ニ傳へつるハ昔此  
 浦の獵人沖より帰らんとせし陸のうへへ眠りかて拍子のうへ妙なるう不  
 圖聞えたるハいつのさうりさうりと舟押立られハ猶先ハ漕かろ舟ニ入り  
 こそ何人の仕業ニやかし色音をさうりさうりハ猶先ハ漕かろ舟ニ入り  
 さうりと思へとさうりさうりて其人とさうりさうりハ猶先ハ漕かろ舟ニ入り  
 せましといつら中さうりハ猶先ハ漕かろ舟ニ入り  
 ミナチ付てあつらうりさうりハ猶先ハ漕かろ舟ニ入り  
 ぬえれハ一人の老翁を笑いて舟の上ニ立るハ即て夜への舞拍子の  
 色くさうりさうり傳へ授けて老翁いらく此舞よく覺えては浦ニ漁

玉江大河の惣圖

今夜瀟城月潮音聞  
上看晴暈浮水雲  
影落三韓下界纖塵盡  
中天大鏡團曉鐘隨  
意促戀賞倚欄干

何處無明月玉江最賞  
秋澄波風疊練晴岸樹  
維舟難与姮娥伴但隨  
鷗鳥遊欲窮幽靜朕聊  
上梵王樓 南溟



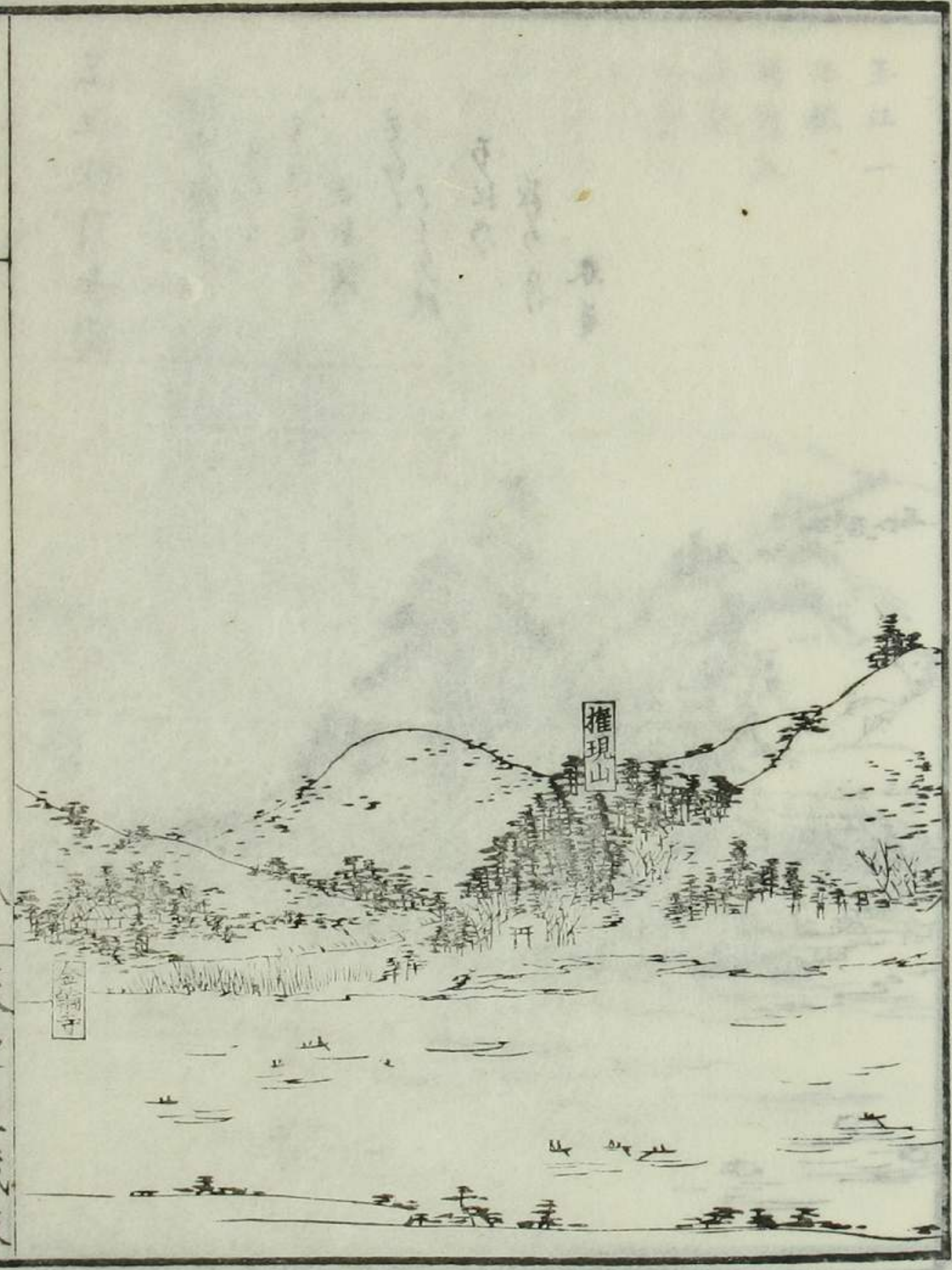
新延屋精版

一碧瑠璃凝不流波光  
始白月滿樓笙歌忽入  
西風起人住廣寒宮裡  
秋 周南



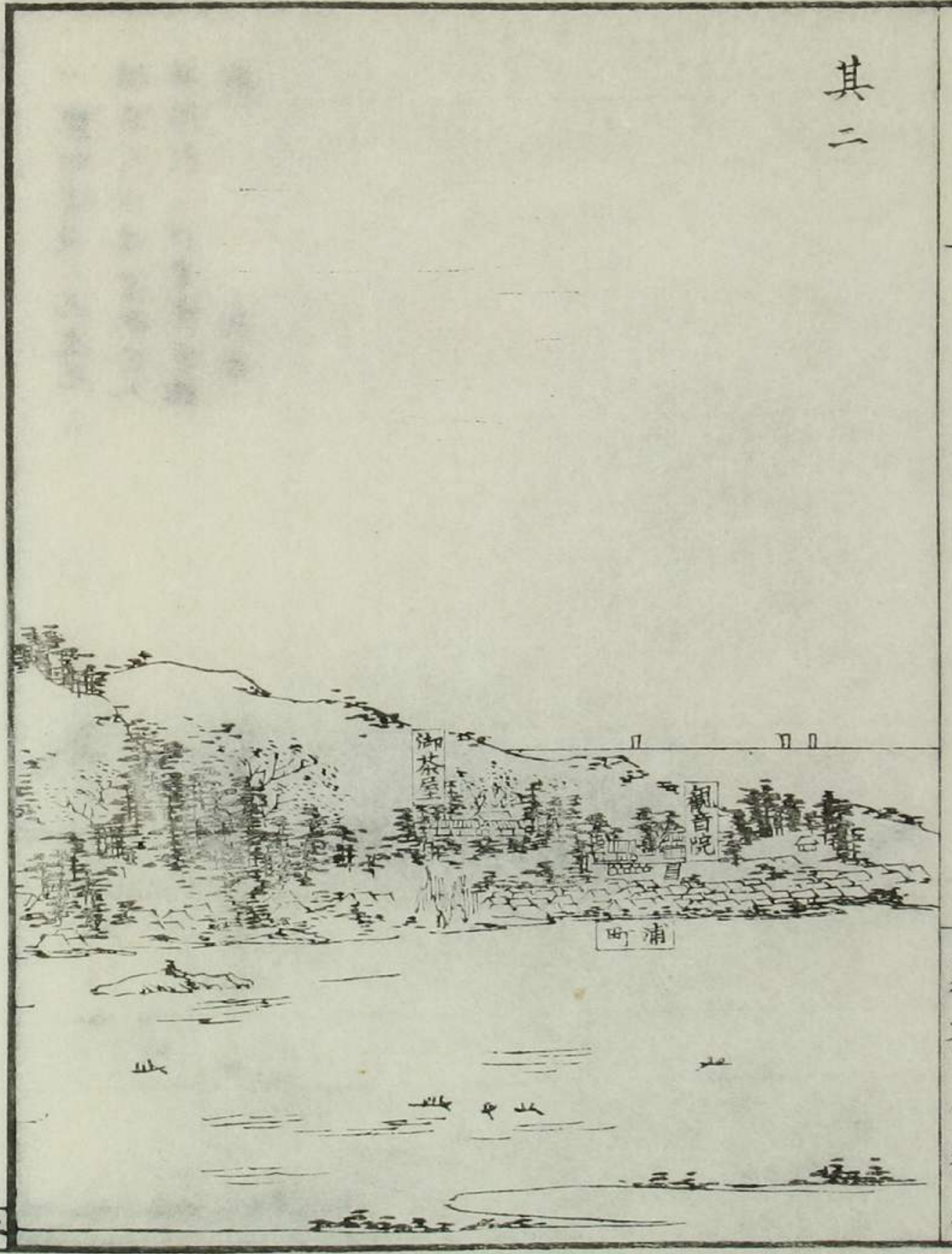
三十九ノ火西ノ江ノ水





三十九  
八  
上  
火  
西  
屋  
三  
鏡  
鏡  
反

其二



三  
和  
安  
屋  
三  
鏡  
鏡

玉江一  
片秋  
明月入  
清流  
夜静人  
回首  
漁村烟  
霧收  
原欽



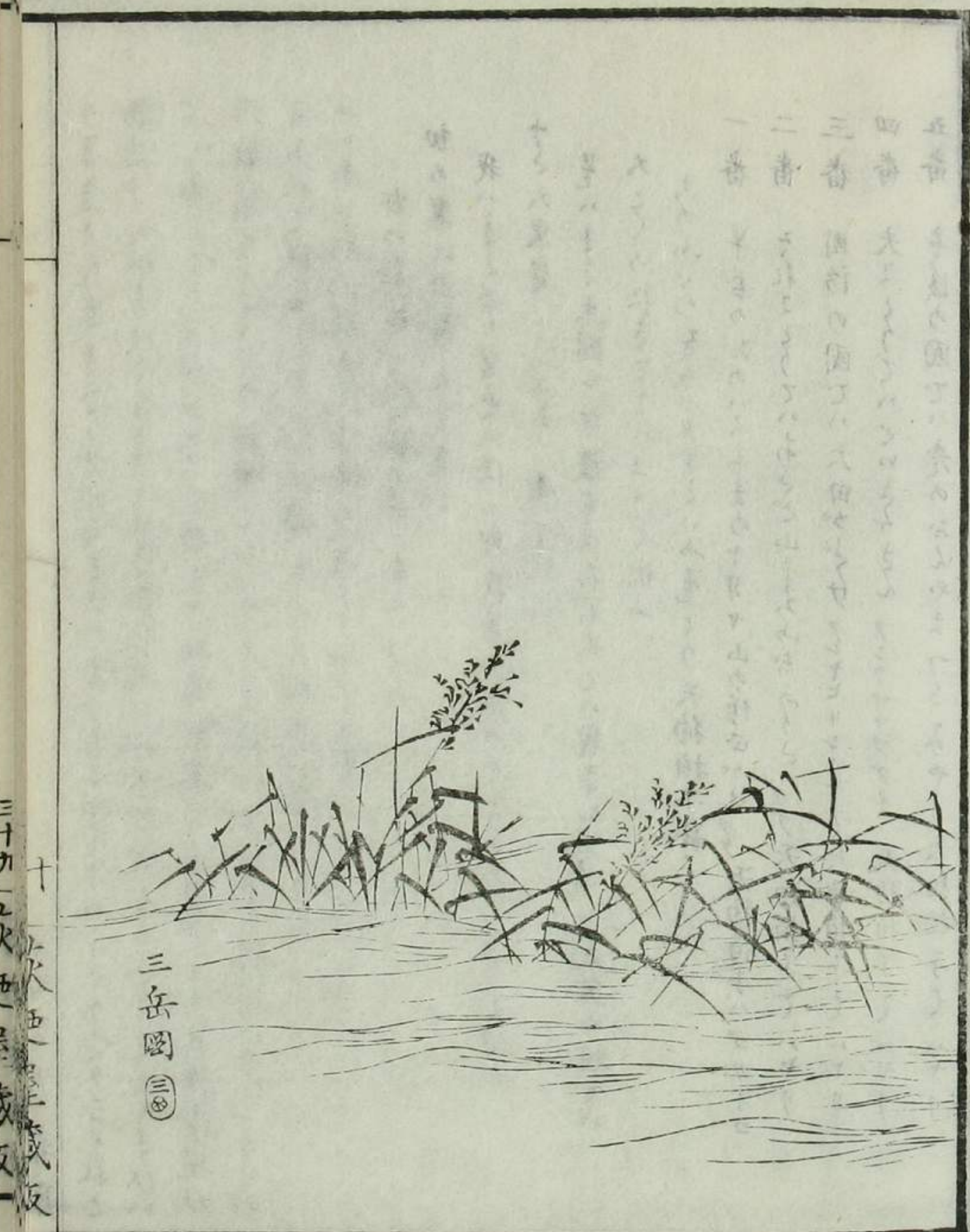
三十九  
上水  
西屋  
反

玉江秋月古園

江の水  
うら  
うけ  
の  
白  
き  
水  
の  
た  
ら  
し  
き  
水  
の  
た  
ら  
し  
き  
水  
の  
た  
ら  
し  
き  
春  
の  
月  
春  
貞

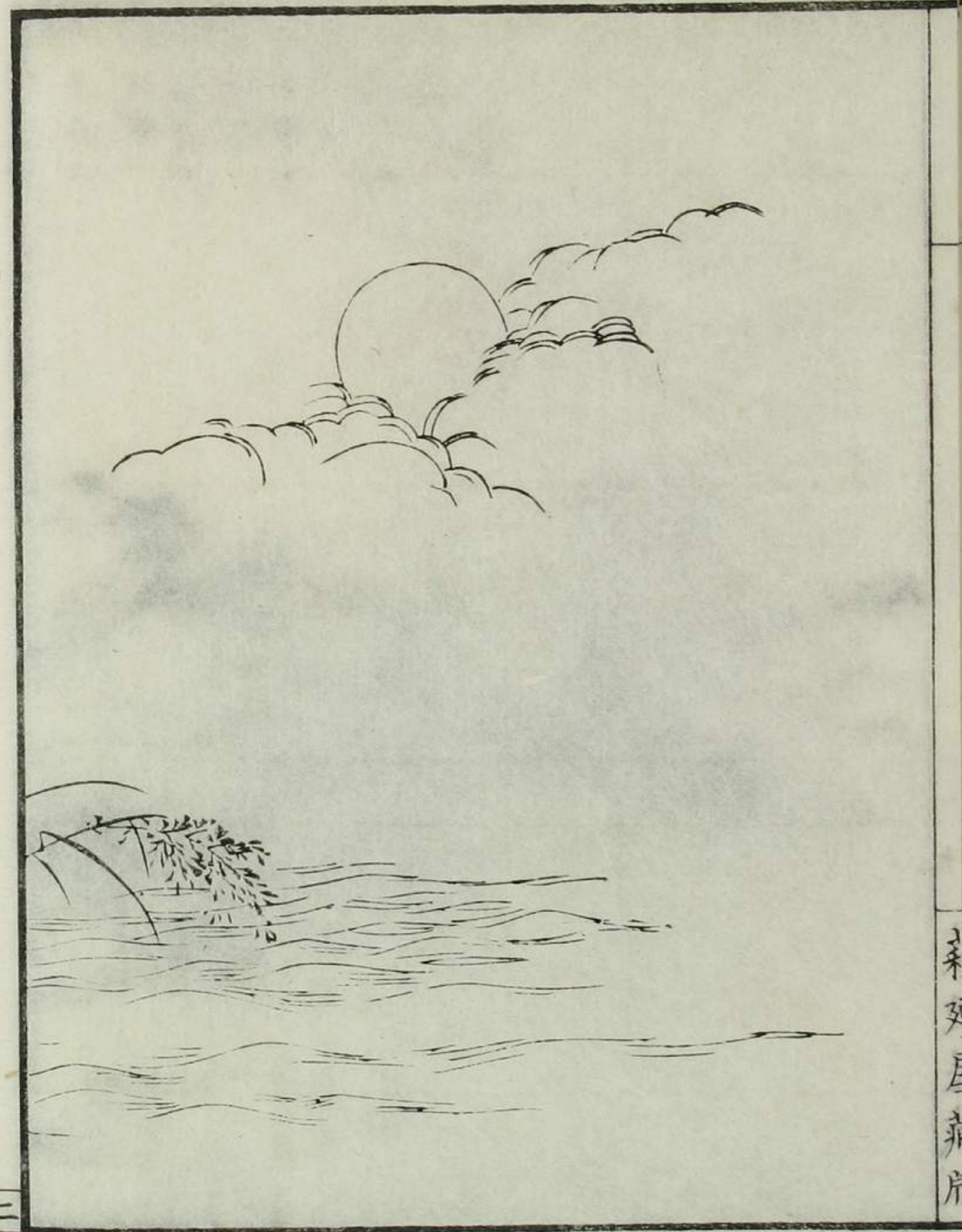


三十九  
上水  
西屋  
反



三十九  
火  
西  
三  
反

三岳圖 (三)



三  
三  
反

三

りまきと記奏すへ必はあまこの漁りありへゆめうらみうらみと  
物語りてかきけす斗りうせむひぬ是や神の詔宣なりへと夕やまひか  
しこみて夫より獵りすの祭として此舞を奏し来りしと其後権現社  
所勸請ありてより社前において是を執行す年々獵いと多し其時  
ふか外に大獵ありて浦の賑はひとされり

右の舞歌いと古雅なれは左に  
初め恵比須舞といふ事

我ハ手と西の宮恵比須三郎我事之釣の糸をとけく云くと浪小

中々大黒舞といふあり事

是ハまご生國を守護する大黒天とい我事之サアリテ大黒の控よハ

大こくのたまごてハ云々と浪小

一 番 牛若のおのハくらまのヤリヤ山のハツハねつくり天狗拍子ハ見送ウ

二 番 それよりてハあご山一ろふおふがごッケ天狗拍子ハハヤリ

三 番 周防の國でハ大田がぶケアヒヤヒリヤア天狗拍子ハハヤリ

四 番 夫よりてハといとがさんアヤサマツダイ天狗拍子ハハヤリ

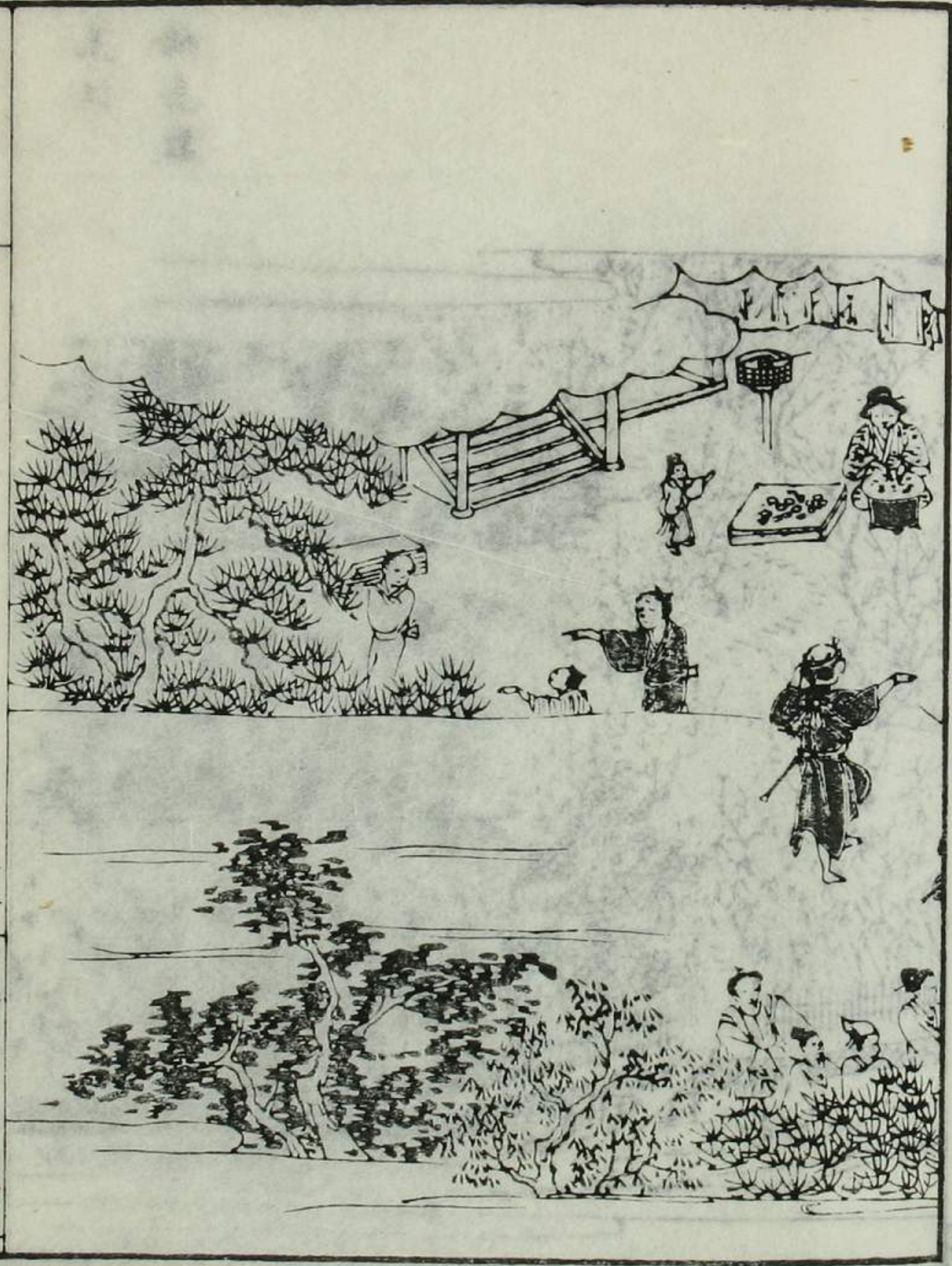
五 番 夫後の國でハ売のおんやまつさみや天狗拍子ハハヤリ

六 番 牛若のおのハくらまのヤリヤ山のハツハねつくり天狗拍子ハ見送ウ

### 念佛躍

是もよ祭礼又執行すは舞いと推するかのいづより起つる詳  
なれと我叔父諫早法皇考へよりいれはるるす都の神事

すめ念佛躍てふりの慶長年間余古香山三郎と出雲の國の巫女お國  
といつものとおまご舞妓を集へ華活四条河原に芝居をきて僧衣を  
着し鉦を叩き仏号と鐘を付て踊るなり是を念佛踊といひける名  
目のうりれりやあんとおわゆる岩倉花園といひて北山にて毎  
月念佛踊てふものあり是の燈籠をかききとん中と按ふはおき舞  
をこしてあふのなるに他所も樂をうるといふよりておもへはは  
と田楽の遠風ふりやあんとおわゆる古き田楽の画に笠の大きなる  
し作り花をかきして胸に付る鼓うつ揺るといよく似たり今も持奈  
良の田楽現存して其業をきくとまら家ありて春日の宮の神事  
執行すときなる田楽ともまご舞代かきりて榮花物語といふ  
はあき女一やうに紅粉を装ひ齒を黒く漆り白き衣と白き小笠をか  
かり田面におうらりて苗を種る田主といふ男坊尼といふ女二人大きな  
る笠をかきうけ足駄を記て回上りか回鼓といふものを腰に結付留ふ  
きさしらすりて引りるさすをぬりてさし駒女君の子とせのこま  
くさせんといふと見ゆいへハ殿上人も擬ひむひりてのうてお事

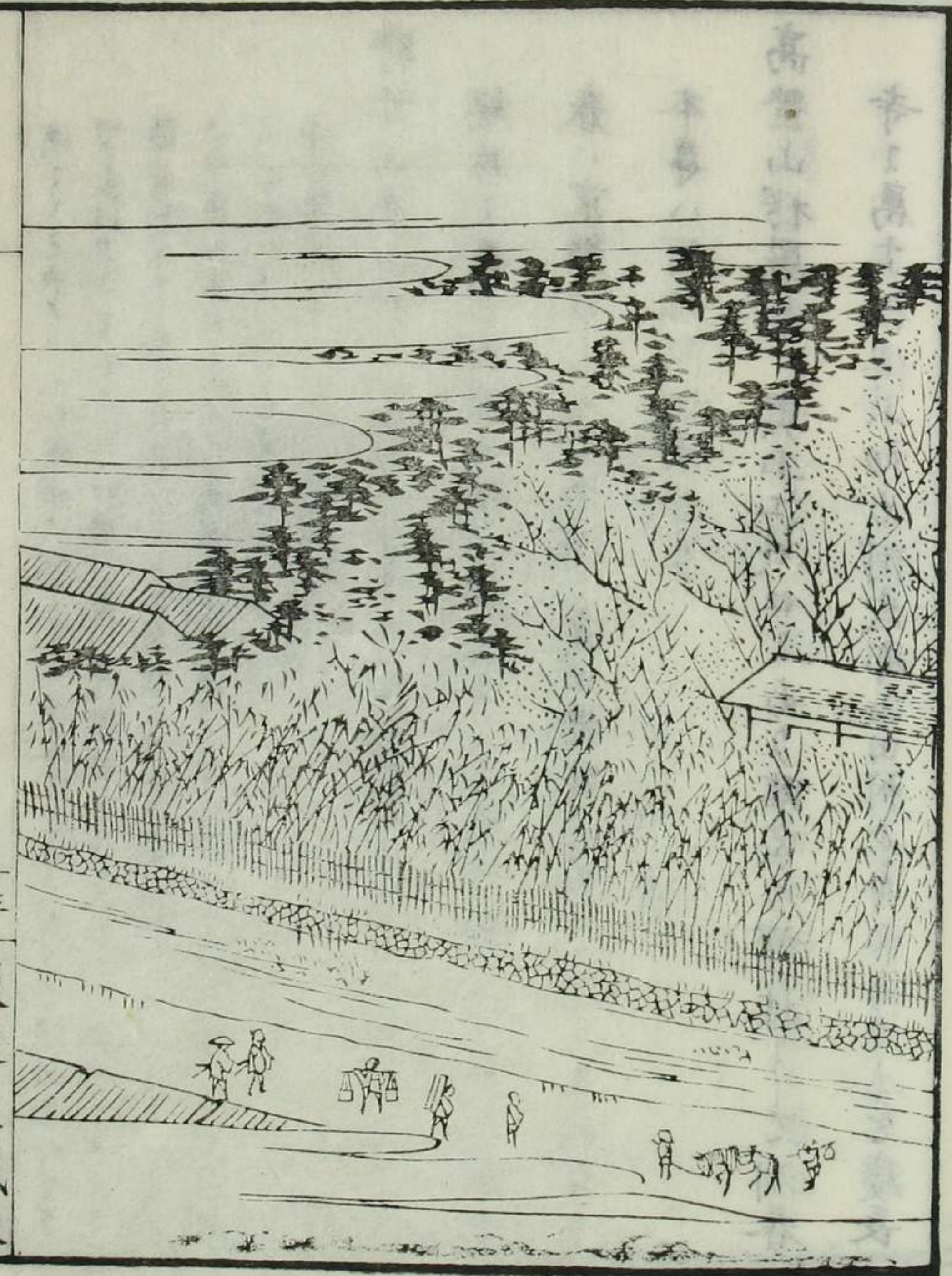


三十九  
十二  
火  
五  
反

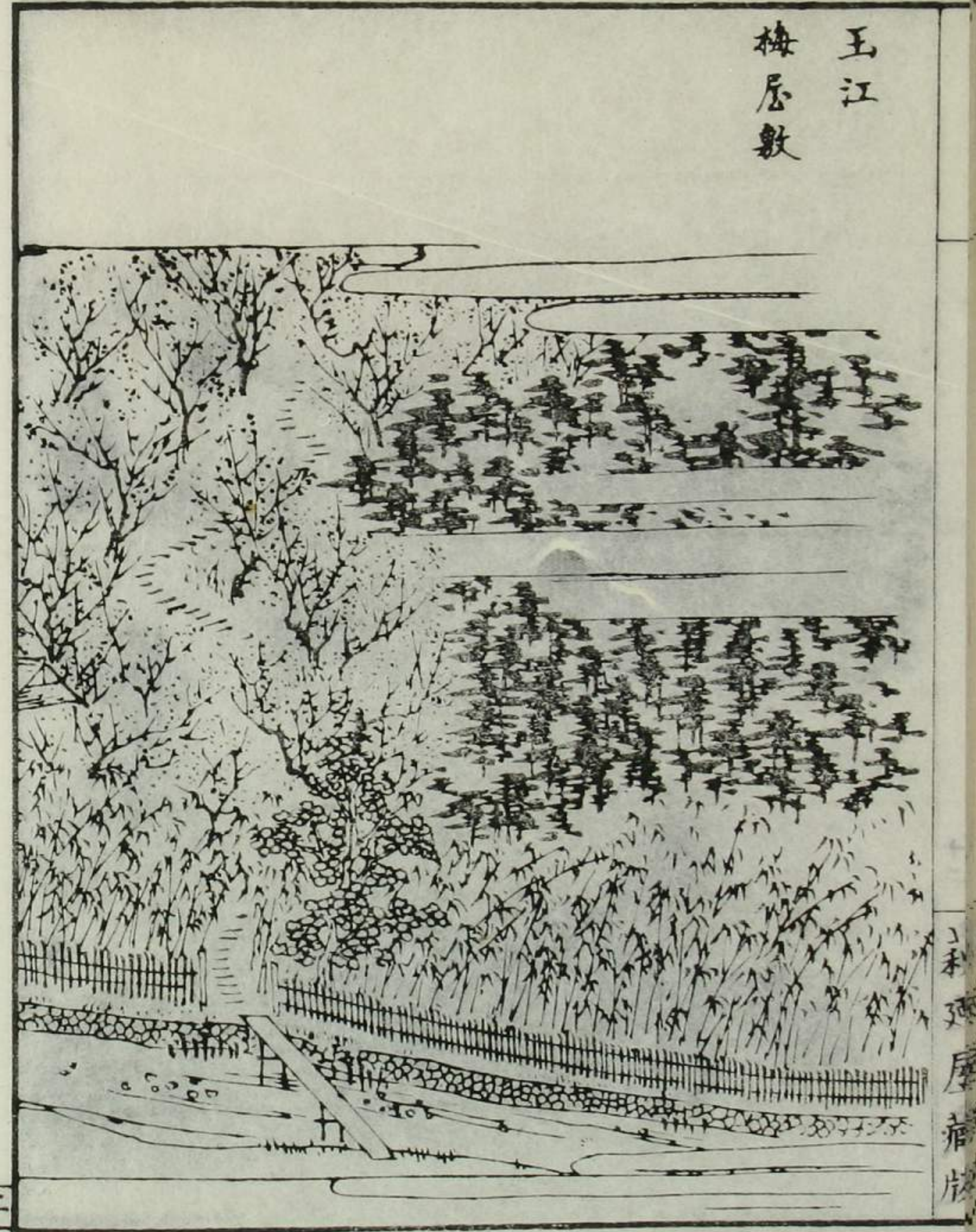
五鬼權現社前  
天狗拍子の圖



三



三十九  
 十三  
 夜  
 西  
 屋  
 藏  
 反



玉江  
 梅屋敷

三  
 利  
 延  
 屋  
 痛  
 版

談にも見ゆや元弘建武の比までも田楽といふ事ありて猿楽といふ事  
ありん中と貞和五年四條河原にて新座本座の田楽を興行す夫より  
猿楽をうちあそむ舞出せしより終に田楽ハ衰へ行しよとのおもわれ  
り或人云田楽ハハと高麗来より出りしものこととをさして舞の長より  
てんれハ是も田楽の名残ありて  
念仏踊の保しつらり

時守山光山寺 同所よりまゝ三丁程南にあり一向宗よりて

端坊に属す永祿七年の建まゝにて開山の釋了春といふ了

春ハ京師の人よりて流浪し武田將監と名のりし也此より

本尊ハ阿彌陀如来なり

高登山楞嚴菴 奥玉江坂口にあり臨家の禪林よりて洞春

寺に属す相傳ふ初め阿武郡山田村水舟にありしを慶長

の中頃當所より遷して再建し本尊正觀音ハ佛師大仏の作  
て開山を芳室秀公座元和尚といふ當寺制札左に寫に

禁制

楞嚴菴

於古仲級御年島より

伐取竹あり

級生あり

此條は禁制より若くは遠紀に書きたる

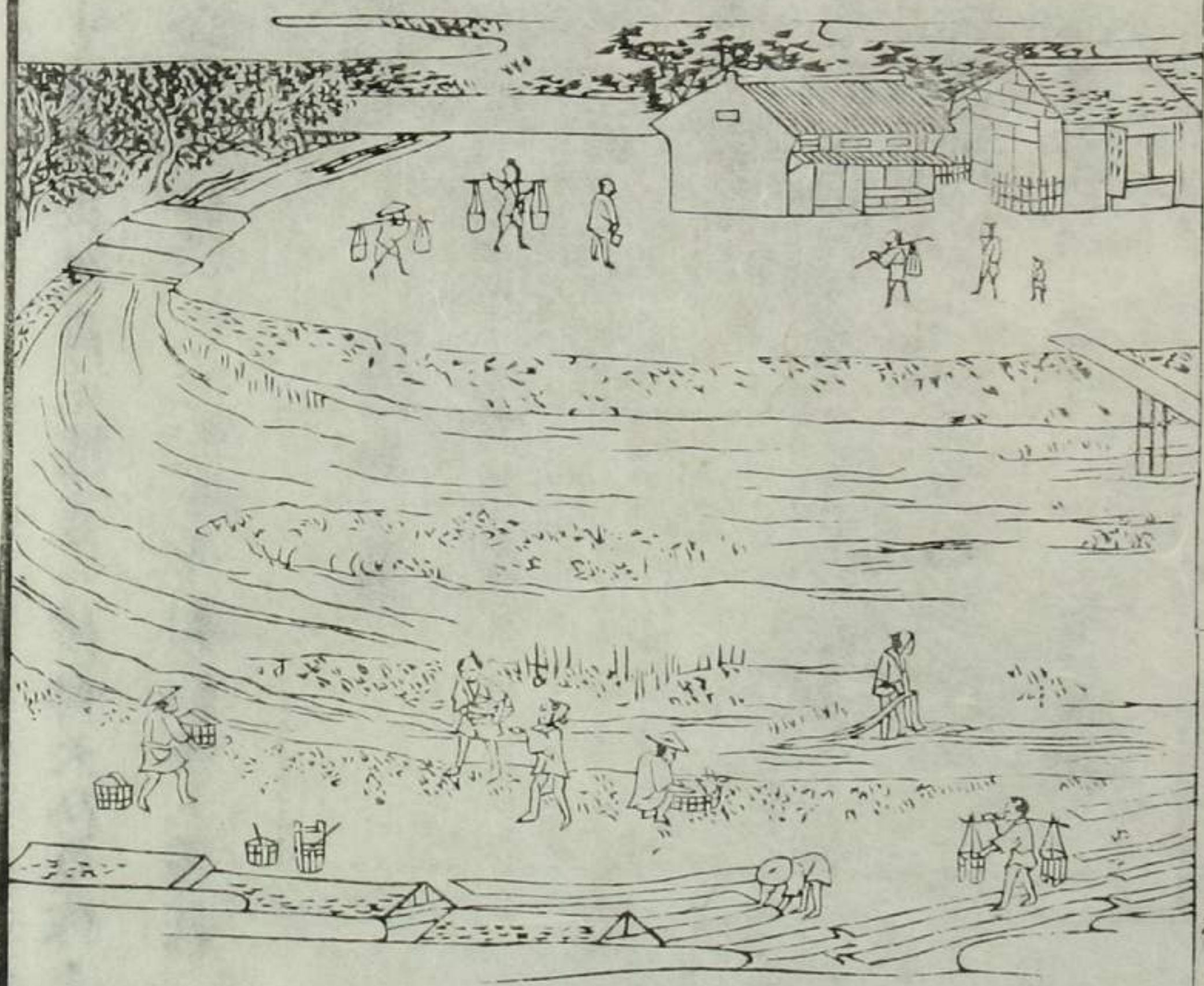
てしやぬ森科志也仍も知れ

寛永七年六月下

玄菟以

玉江晒場

水正北より山田村  
をへて北に流るる  
清い水に四時  
より田代やさし  
麻布をさらし  
この業は市中  
より近所をより  
持ちこめて日  
あり



新編 浮城記

金輪寺 同所より場より二丁程北あり

俣山 ヲモカケ 今粟屋氏下やきの山ちりと世俗のいひりて行く所あり

泰巖公重き御由緒にて粟屋帯刀と賜ふとあるおれと證文見

あつては古より云俣山の豊浦なる生羅村の内にある山をいふ

ちりてはこれと号するのせらるは是も阿武の松原の條も

いひしるる如くたれいしるるところおれありなり

名山雜記

俣山 能因歌枕云 長門

今按る生倉

倭名抄伊久  
俗云伊久羅

とりの所あり山の形不二に似たり

遠く見渡すに山姿羨うて愛するに堪らる俗に俣山形



山両様と通してとりわたりけとやうらと仰るやうちれ  
と其義違へり形山といふ其き謬なり

夫木抄云佛山 長門或云因幡 藻塩州等の諸抄も佛山  
長門とあり

祐舉家集

いかなるもこのまじりものを恋のひ忘れさたはちの山

は歌のてこのたわりの山因幡歌但夫木抄佛山の哥の内  
も祐舉いさよをも引用ひたり然れはたわりの山もた  
まのけの山も同一所なり

三

六帖

つらせらる佛山のまじりものを恋のひ忘れさたはちの山 坂上良女

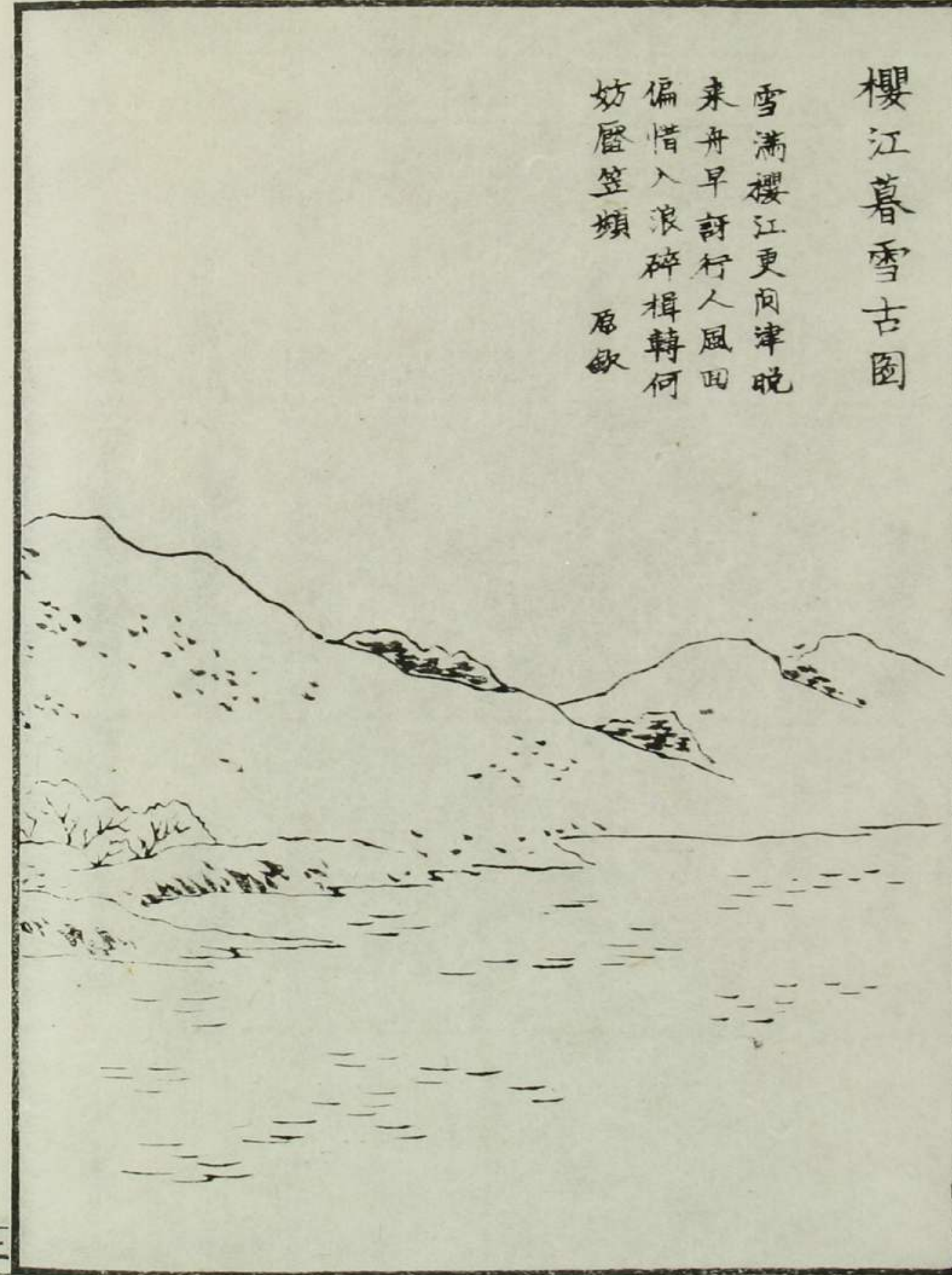
永久四年七月忠隆家歌合 藤原為忠

夫木 佛のほろけ山の月をいれは心もをさうつらねるう形

櫻江暮雪 八江萩八景の一として尤風光を貯へり名もおま  
春の櫻江打霞にて水の翠の春と争ふ吹風す白水ありに  
暑を日もれては橋山の鐘乃音も夜のいさく更らるをたもるま  
野分の風の冷ましく立て繩手往来ふ袂を繋山渡守を呼は  
ふる急の深雪の中へ埋れて面影山の姿のこ所得白なるを  
まも奇なりとすへし市中の騷人あはれけり

櫻江暮雪古園

雪滿櫻江更向津晚  
來舟早訝行人風田  
偏惜入浪碎楫轉何  
妨歷笠頻 原歛



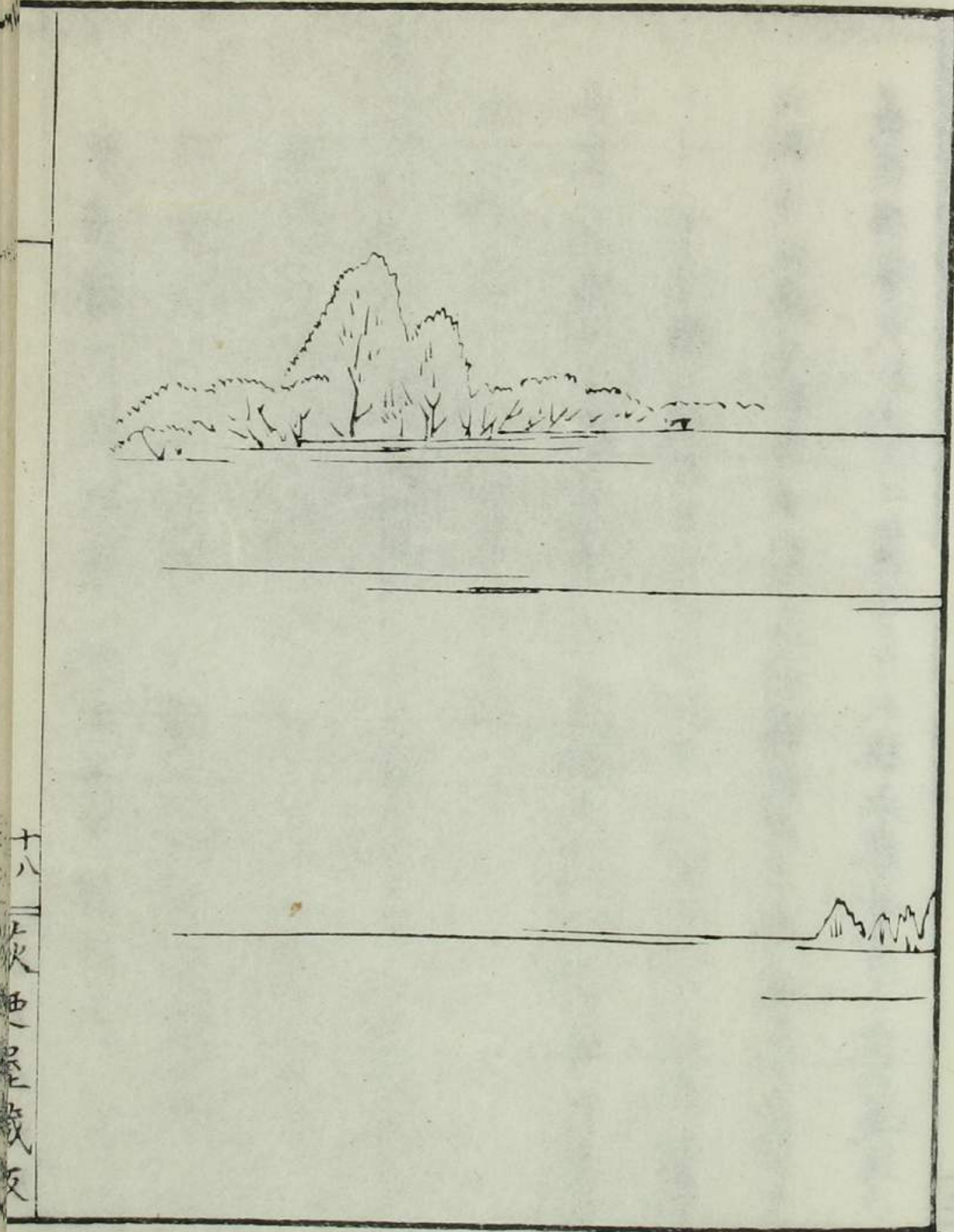
三十九

あらし雪の

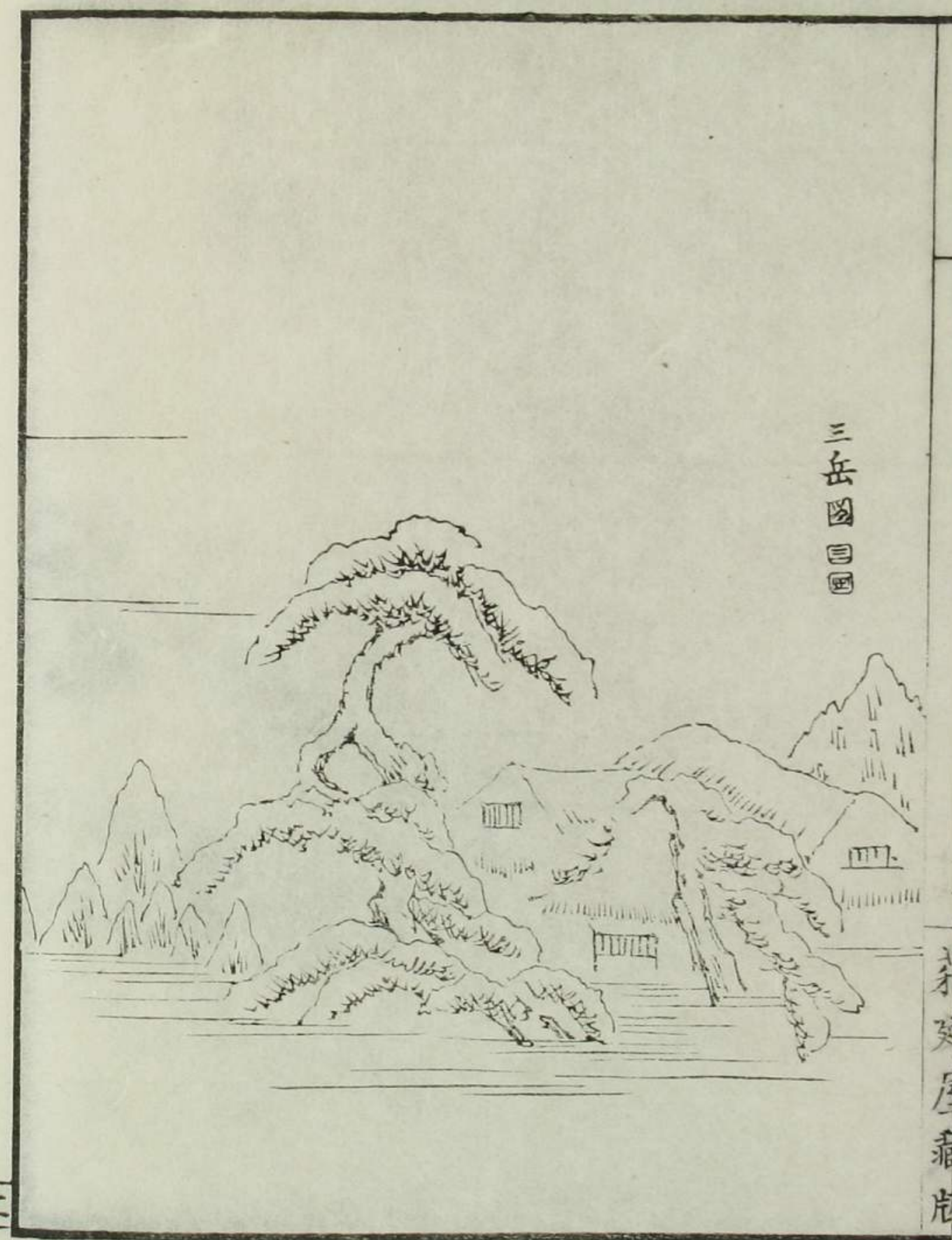
夕れをい  
ほくらたれ  
ほのほくらけで  
あらしを  
あらし  
春貞



三十九  
十七  
三十九  
火  
西  
三  
九  
反



三十九  
十八  
火  
西  
一  
三  
歲  
反



三岳圖

茅  
屋  
莊  
莊

三

雪滿櫻江更問津 晚來舟早訝行人  
風回偏惜入浪碎 楫轉何妨雁笠頻 原欽

白雪の夕れをいささか花はのちみけてちつとををら 春貞

靈椿山大照院 元ハ觀喜寺と号し櫻江ニあり京師南禪寺

派の禪園よりて萩臨家三ヶ寺の一なり

本堂 本尊千手觀世音菩薩を安置に 天竺仏といひ傳ふ 相傳ふ當寺

とはじめ月輪山觀音寺といひりひくく人皇五十代桓武天皇

の御宇延暦年間御草創して勅額道場の佛域あり開山を

義翁傳等大和尚といひ後号を大椿山觀喜寺と改む夫より

久く廢壞して修の草舎ありを承應年間大照院殿の

御菩提所と定させむひて即御法号を以て御寺の号と

し山号をも靈椿山と改められりやと後延享四年回祿

かりて須史の間天樹院の地に移り又寛延よりりて當

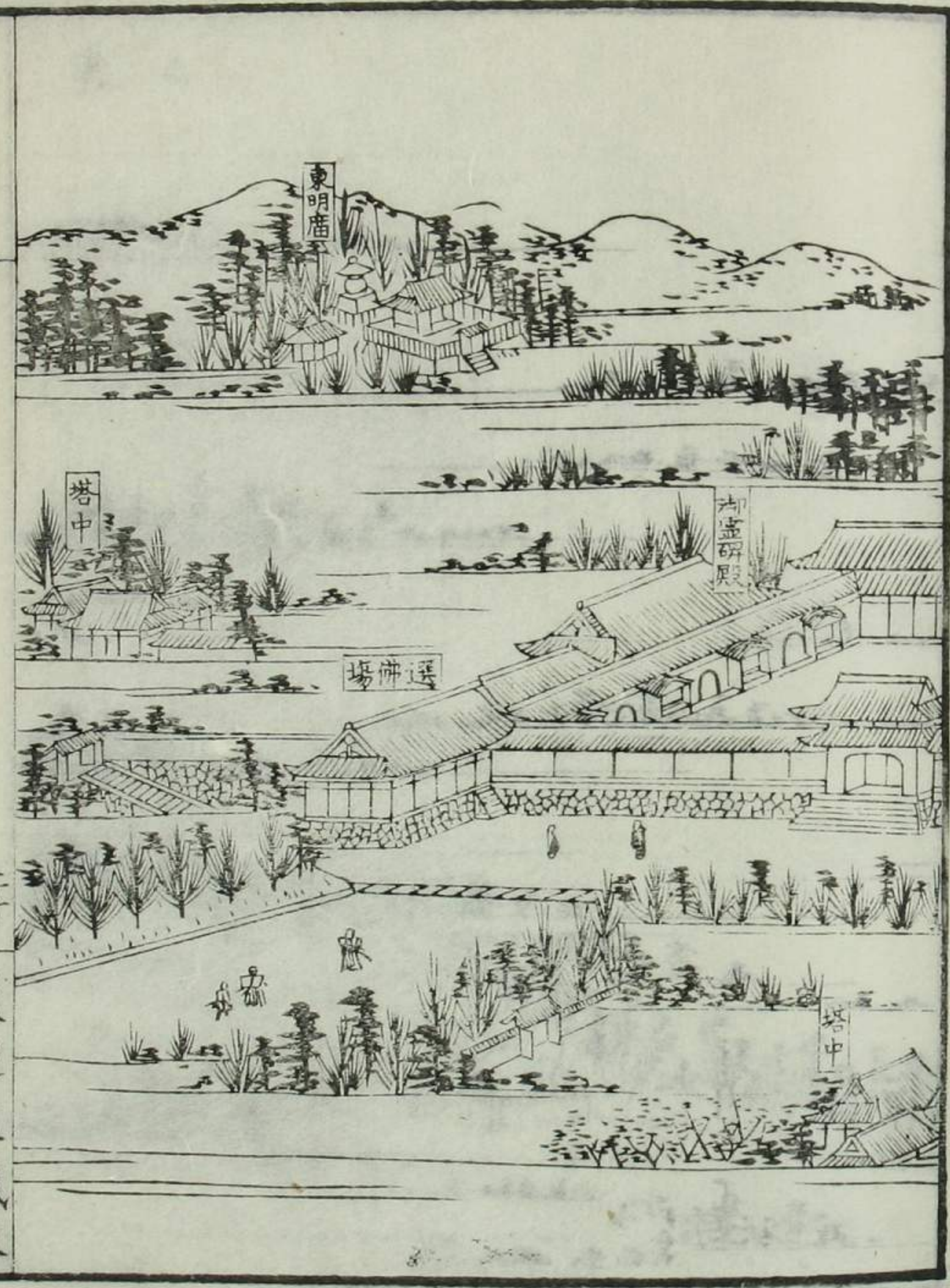
所へ御再建ありて伽藍堂宇昔よりも廣大なり即て中

興を南禪言如圓尊和尚といひりまとい當寺を大椿山

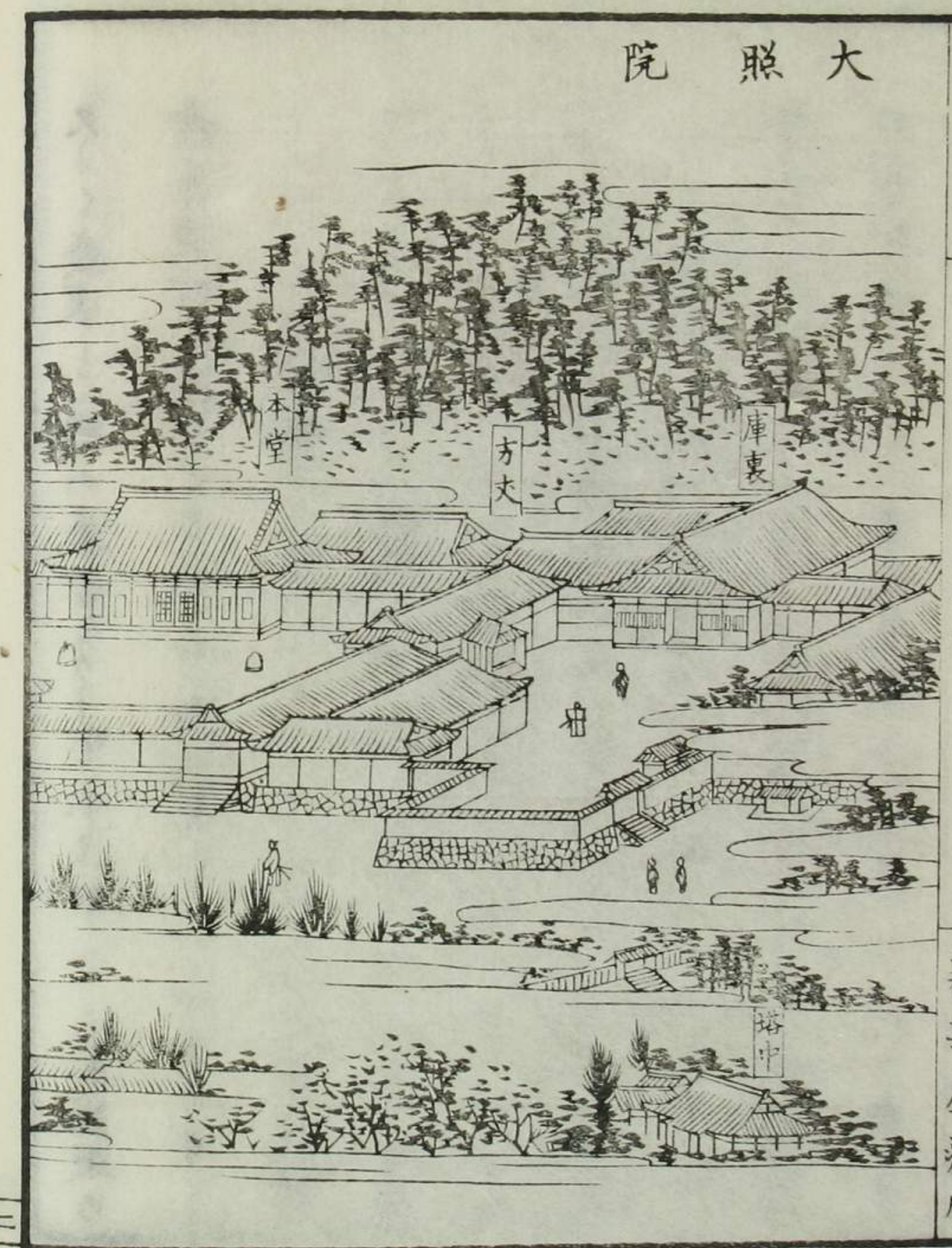
といひ濫觴ハむく此山の頂上ニ大椿樹周圍六尺あり

餘さる古木ありて夜毎ニ光明を顯せり是や椿樹精神

の靈驗著として一叢祠を營て山の中央ニ祀り奉ま

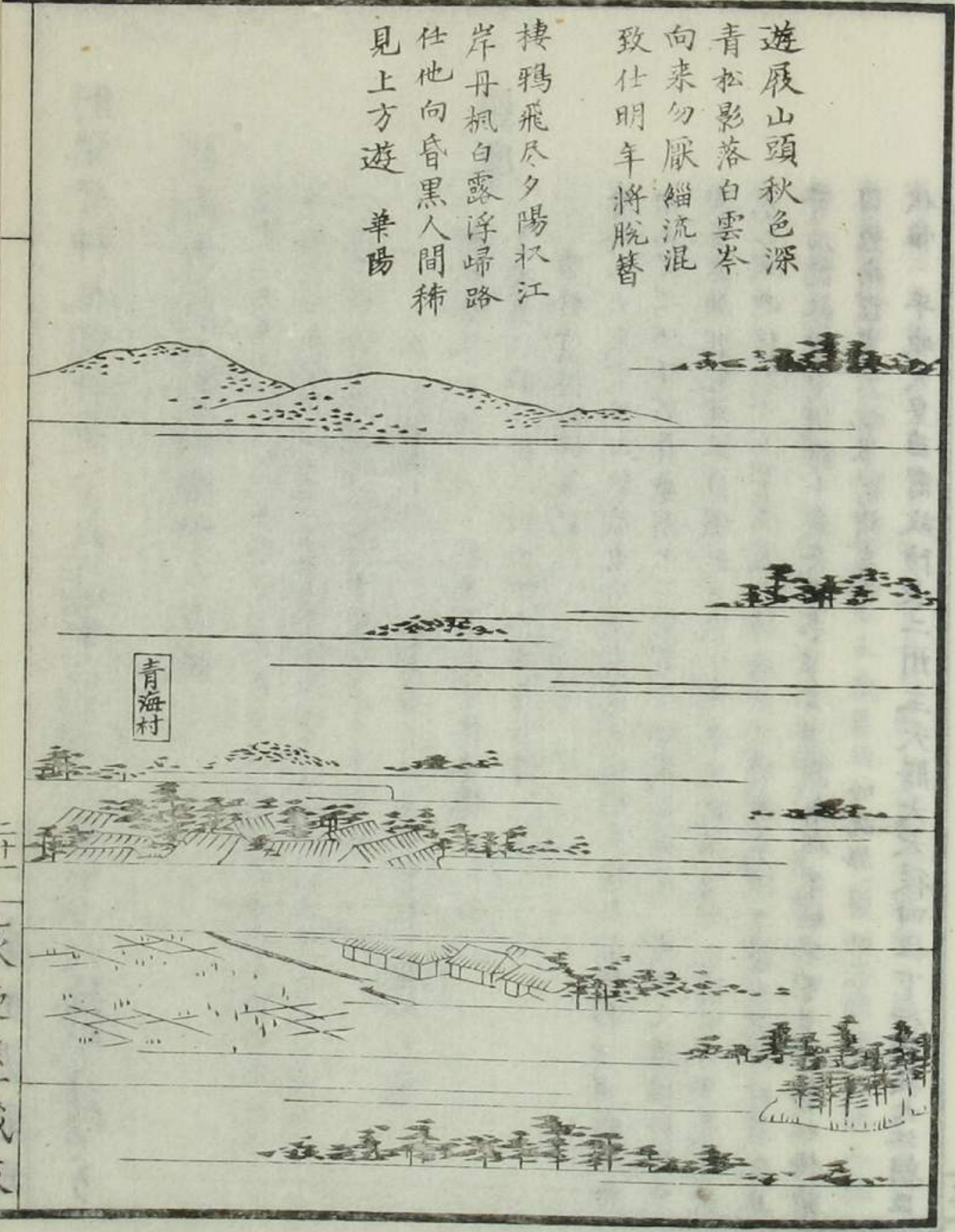


三十九  
 二十  
 火  
 西  
 屋  
 藏  
 版



三  
 十  
 九  
 火  
 西  
 屋  
 藏  
 版

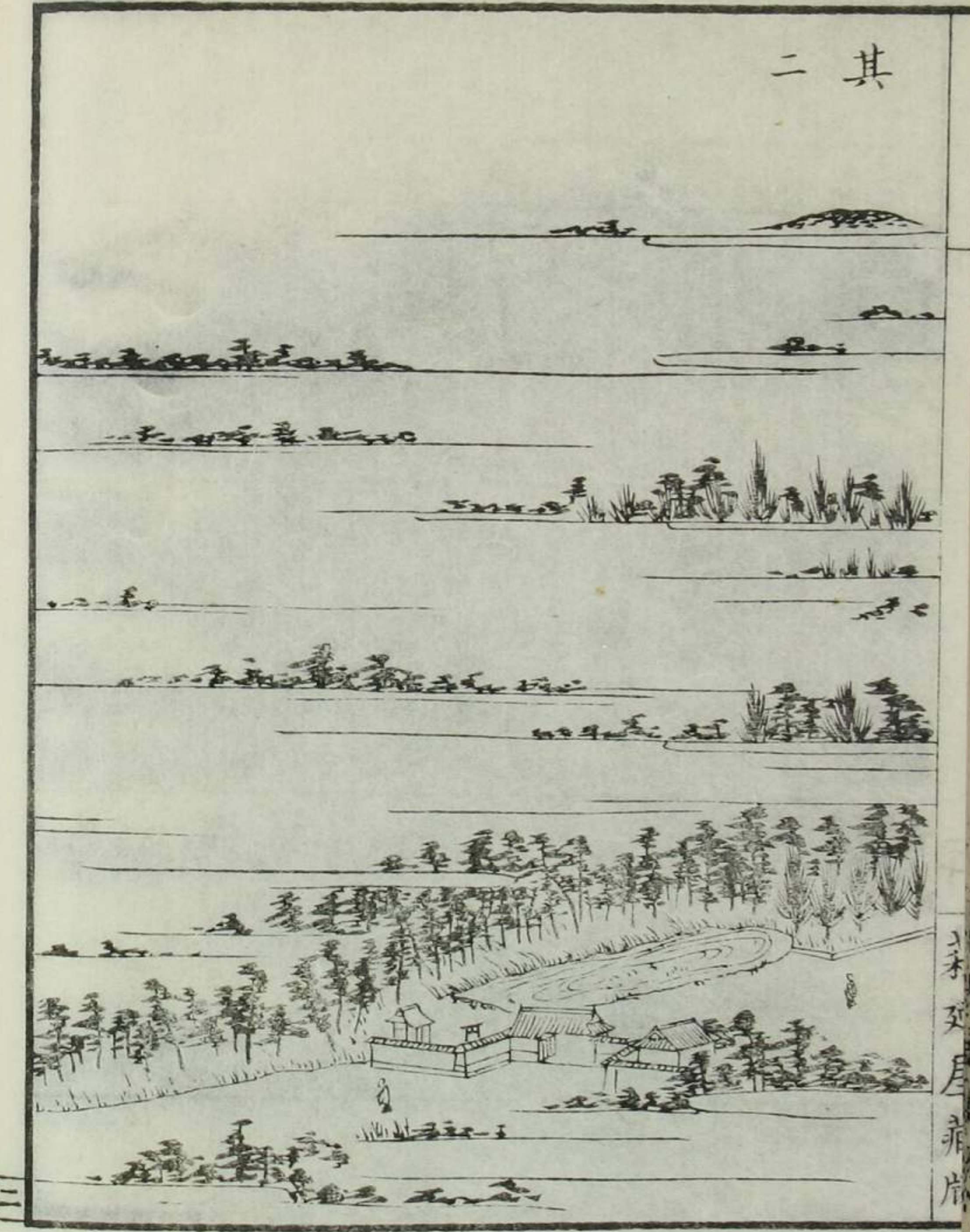
遊履山頭秋色深  
 青松影落白雲岑  
 向來勿厭緇流混  
 致仕明年將脫替  
 棲鴉飛尽夕陽紅  
 江岸丹楓白露浮  
 歸路任他向昏黑  
 人間稀見上方遊  
 華陽



青海村

三十九  
 火  
 西  
 三  
 反

其二



未  
 交  
 屋  
 非  
 片

三

二

則鎮守神祇園社是之されハ此事によりて山号をも大椿山と改めらる

### 開山義翁大和尚像中の古銘

建武二乙亥十一月戊子朔廿一日庚午入滅後百十三年始而奉造工  
于時文安四年丁卯五月廿二日記焉卯塔建立文安第六龍集己巳秋八月  
一日作事始之同廿九日造畢則時奉安置者也

住山比丘

前圓覺千英叟祐俊 奥州人也

### 經庫

御經數卷を藏に内ニ觀光院殿の御木像  
を安置以脇ニ掲る所の板の銘をのす

重修靈椿山經藏記

寶曆乙亥歲靈椿山經藏重修成矣蓋其成則先侯之志願也 中畧 廟之西  
南元爽之地隆然負麓園十二步者乃經藏也而即 先侯之遺像於其中  
安置焉朝服冠纓正位儼然日夜以奉香火迺報罔極之德也 中畧 是歲安  
永乙未逝後二十五年正忌近侍諸臣不堪追慕相与謀而欲作經藏記且  
贊功德叙行事傳諸千歲矣迺求 臣言 臣謝老病不敏不可 臣亦嘗以侍讀  
因免病謹書其概畧副諸左云  
伏惟 平城天皇苗裔故防長二州主大膳大夫從四位下行侍從大江朝臣

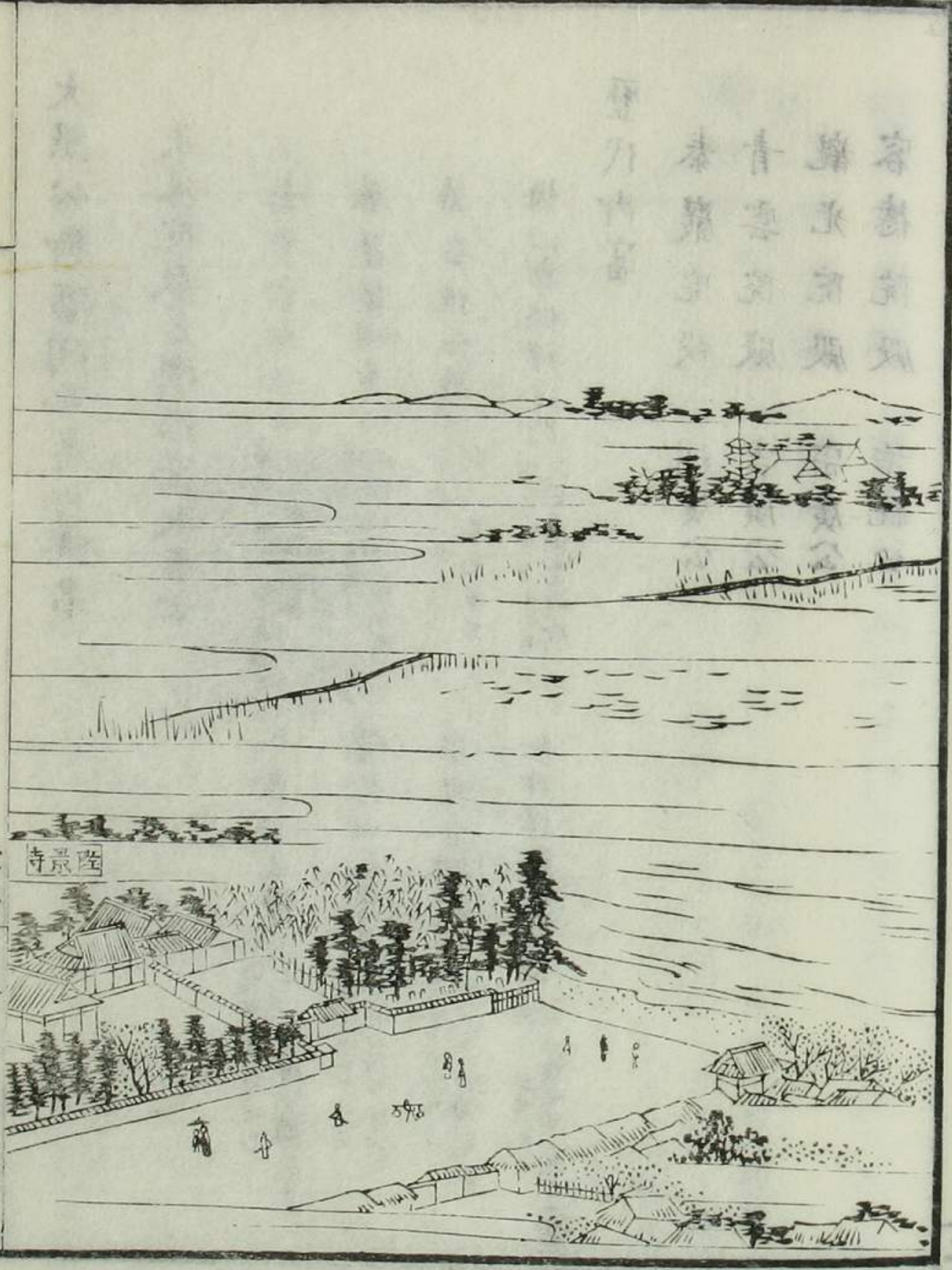
三

宗廣侯享保二年丁酉七月六日誕生長州萩 泰桓侯鍾愛之肇賜小字百合  
助君別位澤氏 君生美如珠玉五歲眉目如画鬢髮如漆聰慧敏速而猛  
也人仰而相之曰是此 兒君有奇骨若非龍駒則鳳雛非庸人也人望而畏之  
如十歲以上之人也是歲 泰桓侯述職在東都乃顧左右召史曹主事乃美  
興詮 曰昔慶長四年大照侯行年五齡着袴之時 神祖使榊原式部  
大輔賜長袴而着之是特例也其後 中畧 今改例使汝猷長袴十一月六日 君始  
着袴十二年丁未正月朔日 泰桓侯賜諱維廣 中畧 寬保二年壬戌八月野州  
刀祢川決口行溢諸州民居漂溺道殫相望 朝廷憫恤之使 侯興役修治  
焉蓋大役云乃得竣事而奉承其大役不亦皇天眷顧所及乎有司等因相  
与謀而勒碑於武州崎玉郡鷺宮之祠以貽不朽也 中畧 四年辛未二月四日  
不幸短命而薨國春秋三十五葬于大照院 先瑩之次法諡 觀光院殿天  
倫常澤大居士云 中畧 侯為人槐梧秀偉眼目射人性深阻而有若城府而能  
寬綽而容納始則聰明英斷聞善若驚疾惡若讐中則早知名於天下云 中畧  
贊曰 皇哉 遠祖 平城帝裔昭穆繁昌茲禘茲祭束帶儼然威儀繫肖  
祖宗之靈共安新廟南面如在四方具瞻風軌德音景行尊嚴覆天之恩既  
足既密祚胤万年無殄無穢

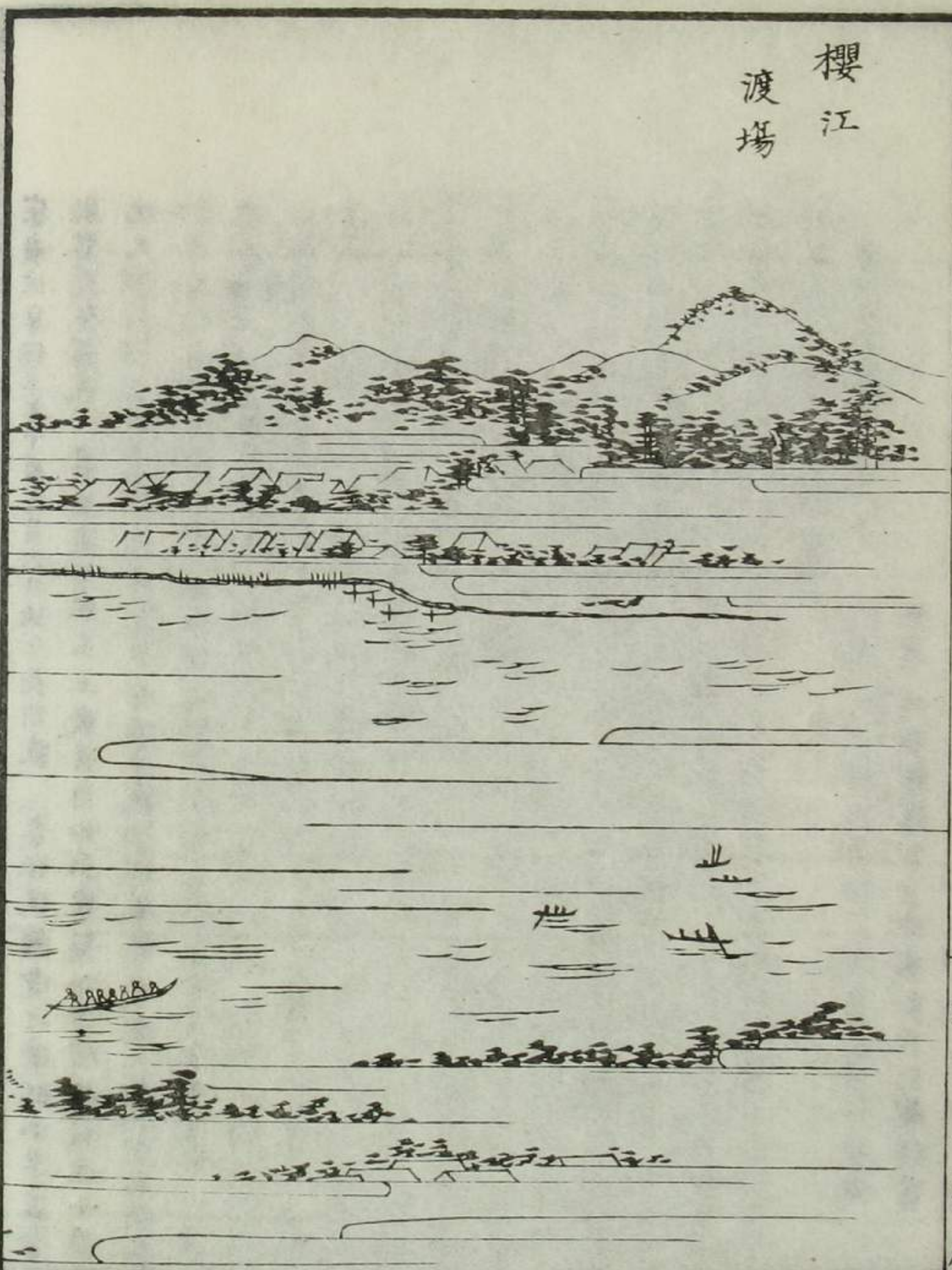
安永四年乙未春二月

長藩 明倫館祭酒 臣小倉實廉彦平謹撰

長藩 明倫館講官 臣州場安世周藏謹書



三十九  
 大  
 西  
 三  
 反



櫻江  
 渡場

未  
 屋  
 菲  
 虎



大照公御廟殉死所牌名

大照院殿月礪紹澄大居士

孝安宗忠居士 慶安四年辛卯正月九日 梨羽頼母就云

三養安宅居士 同年正月六日 小川兵部少輔就克

華亭堅固居士 同年正月六日 信常古京亮就実

傳外以心居士 同年正月六日 山名大膳就行

華岳惟信居士 同年正月六日 村上監物就正

惟忠玄功居士 同年正月六日 祖式主計頭就好

梅心專保禪定門 同年正月十二日 久保五郎右門尉

和仲淨春禪定門 同年正月九日 梨羽頼母臣山本亦兵衛

歴代御廟

泰巖院殿 綱廣公

青雲院殿 吉廣公

觀光院殿 宗廣公

容徳院殿 治親公

清徳院殿 齊熙公

崇文院殿 齊廣公

釋迦堂

御寺の後山あり此堂字ハむり 當山北谷ニ大杉の木一株あり  
之を採用して其一本を以て修繕せし所ニ別觀喜寺時代より連綿  
として朽ることなく本々釈迦如來ハ坐像として六尺六寸余是所謂椿木  
を以て彫刺しそのありとをいひ傳へたり其胎中の古銘左ノ如し  
日本國長門州阿武郡椿郷大椿山觀喜禪寺佛殿本尊奉修覆本師  
釈迦如來

大檀那沙弥源勝

住寺第五十七世 法孫比立祥昭 奉行優婆塞久持

三好氏

大佛師覚賀

康永三年甲申十二月廿五日立春日

當山十景といふハ

圓通巖 山上觀音堂をいふ

東明廟 大照公御廟

白櫻嶺

當山西の峯

華嚴峯

當山南峯

白鷺池

本門内左の池

翠竹園

南の岳

丁字水

門前の流水今古川筋といふ

小松江

まて當寺の近辺を以て萩名所の一なり

選佛場

禪堂を云

渡香橋

中の門より下通りとあり  
今繩手より橋をよる

田廊の樓門の揚所の扁額

空色名

禪堂の揚所の

選佛場

此外聯額の類多し  
畧して掲げに

高月院

同所御位牌殿の後あり同寺の支院あり

開山鶴天慈松和尚あり

相傳ふ美祢郡青景村月溪院を引て号を改む元祿三年の

建立あり

清正院

同所御本門内の右あり同寺塔頭の一ありて開

山ハ高月院と同

相傳ふ美禰郡青景村慶久菴を引て元祿三年建立あり

所あり初め清涼といふ後正に改む

道樹院

同寺の塔中より裏門の外右あり

相傳ふ厚狹郡宇津井村實際寺を引て号を改め元祿十年

建立あり所あり

小松江晚鐘

同所を以て八江萩八勝の一ありて風景黄昏を

小松江晚鐘古園

山のくも

うすて

こころて

きよはの

わらうつら

人のくも

春貞



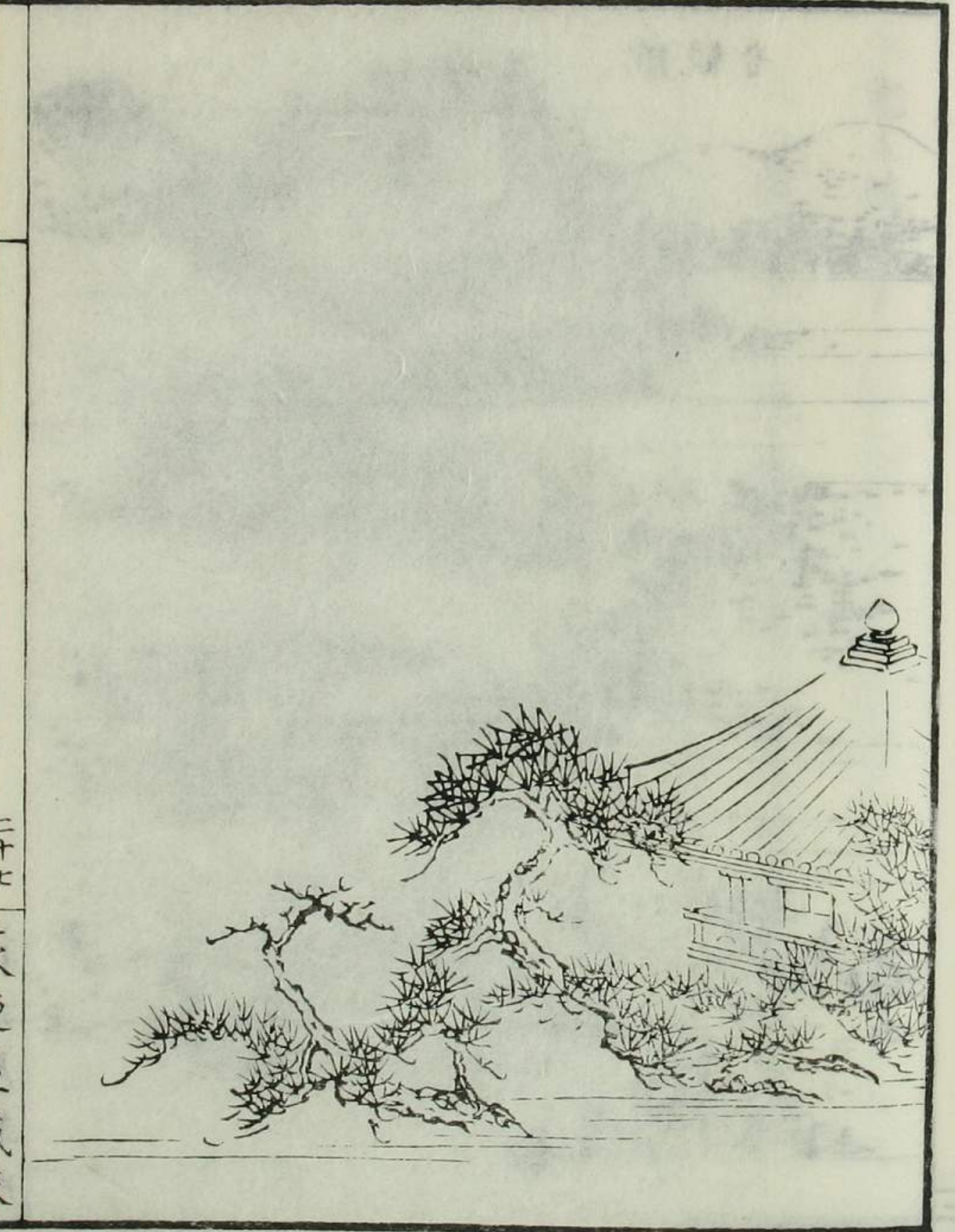
秋延屋藏片

断霞夕繞  
峰深寺度  
疎鐘漫く  
春江水平  
吞棧外松  
原欽



三十九  
二十六  
火  
西  
屋  
蔵  
反

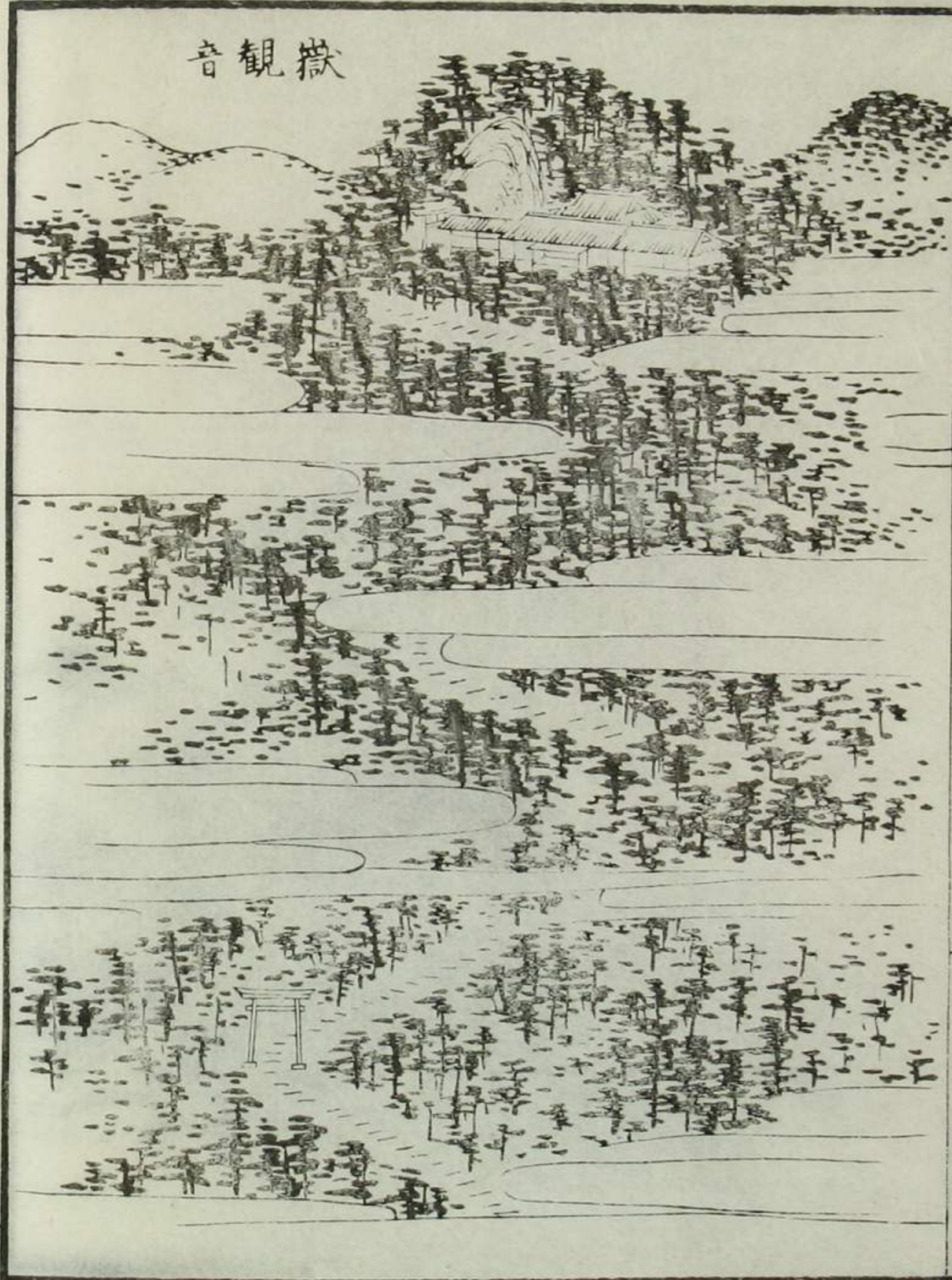
三十九  
二十七  
二火  
西  
三  
反



三岳園

三  
火  
西  
三  
反

音観嶽



三和屋藏版

尤も佳とす

断霞夕繞峯 深寺度疎鐘

漫々春江水 平吞樓外松 原欽

山のそとありてきき江の松よりつふ入おのり 春貞

古川筋 同所繩手架る小橋の流をいふ源ハ川上河より

て螢火山の麓より霧口をよぎり南明寺の下水溜入大

谷長藪の中をいそ濁り淵 今椿社一の鳥居の  
前下流をいふ より小松江通り大

照院の前は流き落る川をいふさて古川といふを今の太川出

来さうり以前よりあれハ此称有とより或人云世は古川筋

三十九 大和 三和屋藏版

といふ説あれど、さうりそハ此橋本川の往昔よりありて川幅も今よりハ廣き所ありて大照院本門前より迄ハ入廻りてみる橋本川の流るるよりさう致御寺御再建成て參詣せらるゝとして新道を作らせらるゝかの本門前より今の如く御開地とろりろりりの其後田圃へとも水流を付られて御寺の前通りへ切ぬれらるゝされハ此御開地の所ハ昔の大川のうらなれハ猶穂毛の残りらるゝ名もるゝへ古く螢火山の麓より流ま出るよもあらさるゝと慶安萩画図を閲ても明らうなり

光明山西法寺 青海よりあり浄土宗よりて龍昌院に属す

開山ハ心蓮社光譽良間和尚よりて享保年間の建立なり

本尊阿弥陀如来千体頭 長三尺五寸の座像 脇立觀音五百体頭 長二尺五寸の座像

地藏尊頭 長二尺五寸の座像 阿弥陀如来百体頭 長二尺の座像 觀世音菩薩百体頭

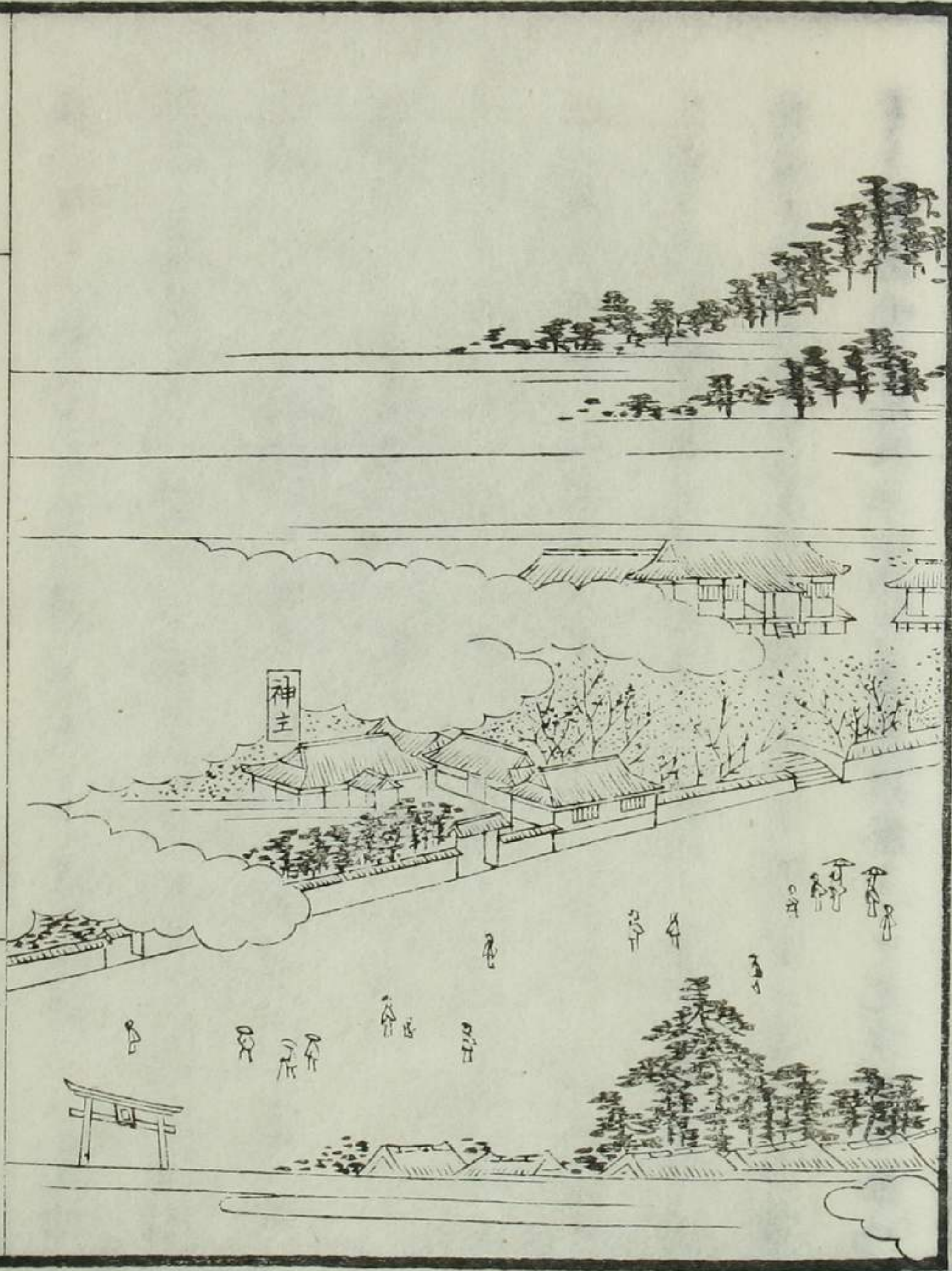
長二尺の座像 地藏尊百体頭 長二尺の座像 三尊体百体頭 長七寸の座像 の數多を安置す

相傳ハ元祿の比萍水浮雲の僧來りて千体の靈像を彫刻し則當寺を建立せし所より世人當寺を号て千体佛と云ふ

縁起左よりあり

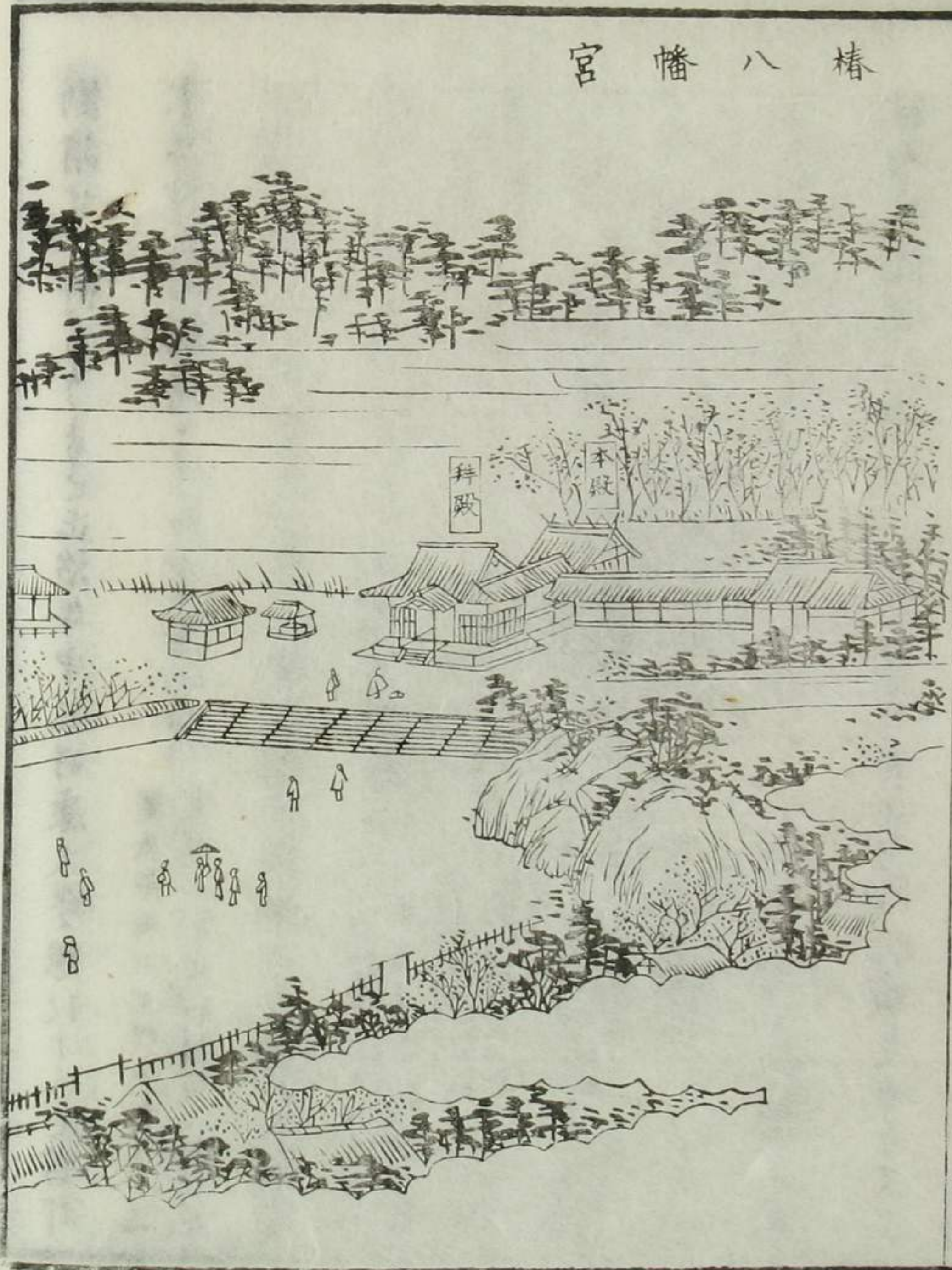
夫當山千体佛之言尊像者其以前一人之有沙門阿武郡椿湖景山之地求草庵結千体尊像之狀大願而漸悉成就維時元祿七年戊戌從初春室永三丙戌秋九月迄凡十三箇年積星霜而創立莊嚴不殘為成就者也享保七年寅二月十四日本堂悉建立并ハ佛供養寺在之伏而願者十体佛





三十一  
二十九  
火  
西  
屋  
殿  
友

椿八幡宮



未  
定  
屋  
雜  
片



夜三日して終れるといひ傳へり夫より世々連綿して萬治  
年中泰巖公の御時御修營を加へさせむひて本殿樓閣  
弥備りしうやう神明宮御産土神によりて當社をもて御  
遙拜所とたまきしめむは是當社の規模とせり

まゝ云當祇園社ハ往昔人皇九代 開化天皇十五年の春南  
山の嵩く夜あり瑞光ありてやむときまゝ村里のむれ怖驚き  
て直く是を廳し許し官吏即て山くゆきてこれハ巖上り老  
翁現れむし宣むしそ々々ハ我ハ天の下國內をまゝく守護  
まゝ素盞鳴尊之此地山海の景色殊勝く尤邊要の樞地

より我當地の垂跡一永く万民を撫育すへといひて山の内  
より入る夫より晝夜の差別をいそげ兼祠を営みて幣帛  
を奉り尊敬怠惰をりたりまゝ云延喜の御門の御代逆襲  
の皇子故ありて當國當所は左遷むひり時此山は昔より生茂  
りし大椿樹周圍七圍は餘をりありしを切らせむひり  
れハ即神の崇りしとて夢中へ告て宣く我ハ此地を守  
る所の神あり大樹ハ山をたもつる精神ありやう當國當郡ハ  
殊く名木の生ふる所をれハ今より後此山は芥を入ることを  
禁はと告むひぬ皇子驚きむひ即て宮を麓より祇園天

皇と稱し奉りて尊かこみ孫まじく崇め奉り後當社  
を分ちて大津郡瀬戸崎へ勸請せらむのあり  
を椿とつゝハ此時より名つけらるゝといひ傳ふ又當郡ハ大樹  
古木一名譽らるゝ古書にも多く載られハさもあるへ中昔  
のころこれとわひあつゝをくに引たり

新撰六

ちつちつ武の郡の松板ハ屋主人もさあさめや 光俊

文治五年二月卅日壬寅長門國阿武郡者為没官領内之間  
為勸賞雖賜土肥彌太郎遠平為御造作松取可去進地頭職  
之由依有勅定可退出之由被仰云々

逆髪皇子供奉の隸人として武春守永清章實利定香信方  
といふ家ありと云今守永信方の両家連綿として子孫繁昌  
當社御祭禮ハ九月十五日より十六日までとれ其式嚴重  
御名代且流鏑馬献馬の式よりまゝ春日社の例に同一市  
中ハセとより近郷近村の貴賤羣集夜渡より日晴に継ぎて  
いゝ賑くへり

古棟札文左に録す 東に伊東大炊助  
とつり

奉尊立長門國阿武郡椿郷多八幡宮御宝殿  
右旨趣者天下泰平國家豊饒者大檀那源正頼同  
御息廣頼御武運長久御家内安栄別者御子孫繁昌  
如意圓滿矣高圓普請方裁判之當郷守護越後守隆

家普請奉行上村伊兵衛盛家大工塩川万六左衛門尉  
瓦大工溝辺主税允于時天正十一年九月辰辰日

御當家御再興棟札

奉重造營八幡宮万治二己亥曆九月吉祥日 造立大工引頭七左衛門

防長國主侍從大膳大夫從四位下大江綱廣朝臣

執權 榎本遠江守藤原就時 番正主頭藤井喜大夫就定

造立奉行 國重九郎兵衛尉就久 神王五位上守信濃大夫守藤原定久

同吏 八谷半左衛門少尉

古證文寫

奉重造營八幡宮  
防長國主侍從大膳大夫從四位下大江綱廣朝臣

口至塚東照殿側南邊所記

右件控現中取地云云天長地久

清和島浦中廣決之合字也

以安四年

佐伯友五郎

奉重造營八幡宮

會任所 檢合新田

大和正新地就江中寺

し件

元亨元年  
三月十日

堀江三吉

宗行) ちん河武新格々

ハ情三友地子

まの領と云を御直おんまへ

元亨元年  
八月十日  
河内

三和子屋藏版

三

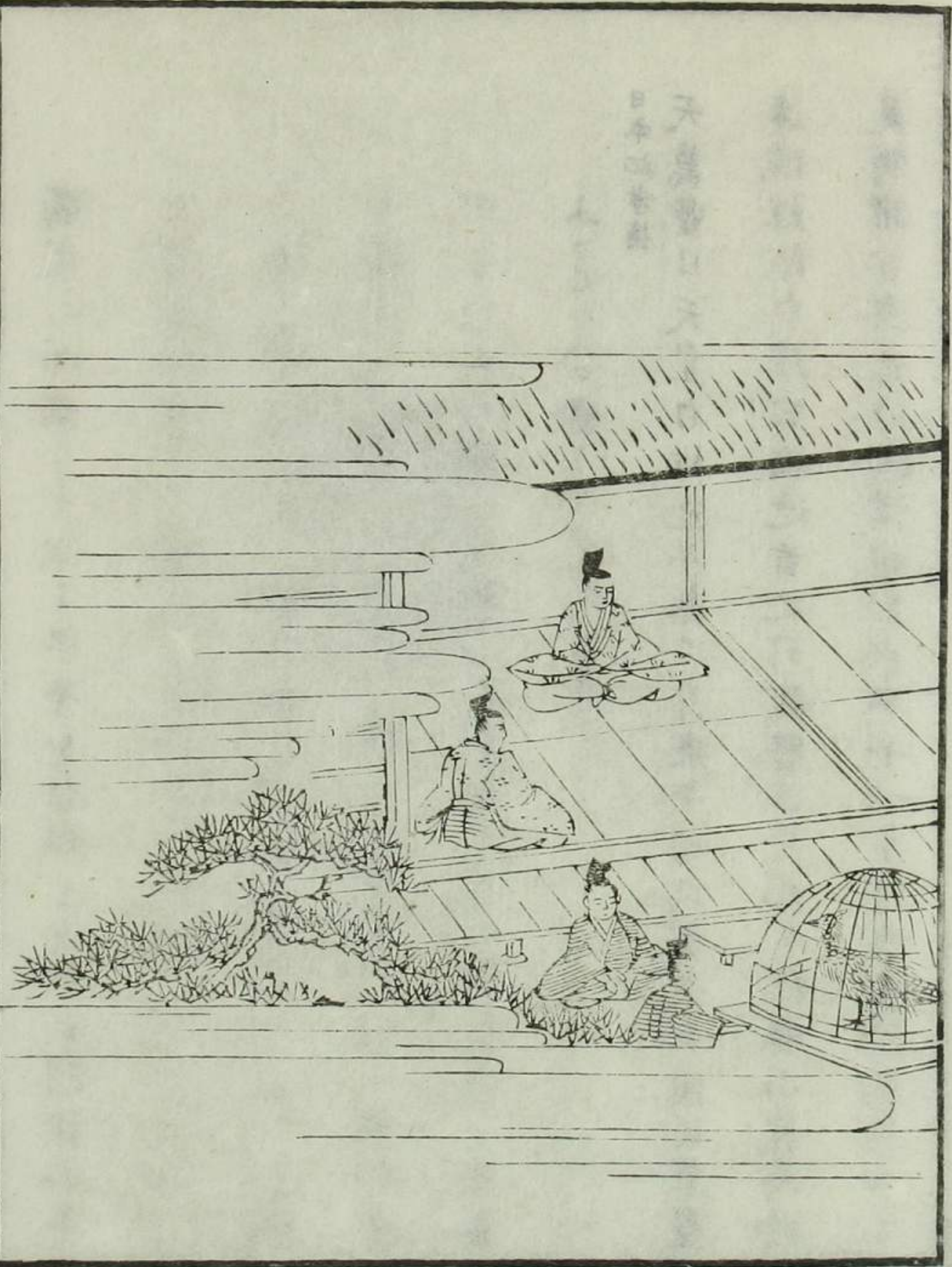
まの當社舊記曰昔人皇三十七代 孝徳天皇の御宇大化  
五年正月穴戸の國司草壁連醜經椿郷の南谷麻山より白雉を  
獲て陛下に獻を即白雉ハ祥瑞の物なりとて年号を改めら  
る國司も賞として三年の調役を免されり此麻山とい  
へる山當社南谷にありていと大山なり  
かく傳記にハあれと白雉の  
出たる麻山ハ美祿郡なる  
麻山なるへり引書左に見ゆ因に云安永八年當郡河内村より白雉を  
出は是ハ引田方といへる役所ハ納めりと或書云云り

名所雜記

麻山ハ赤村 阿加  
武良といふ所あり

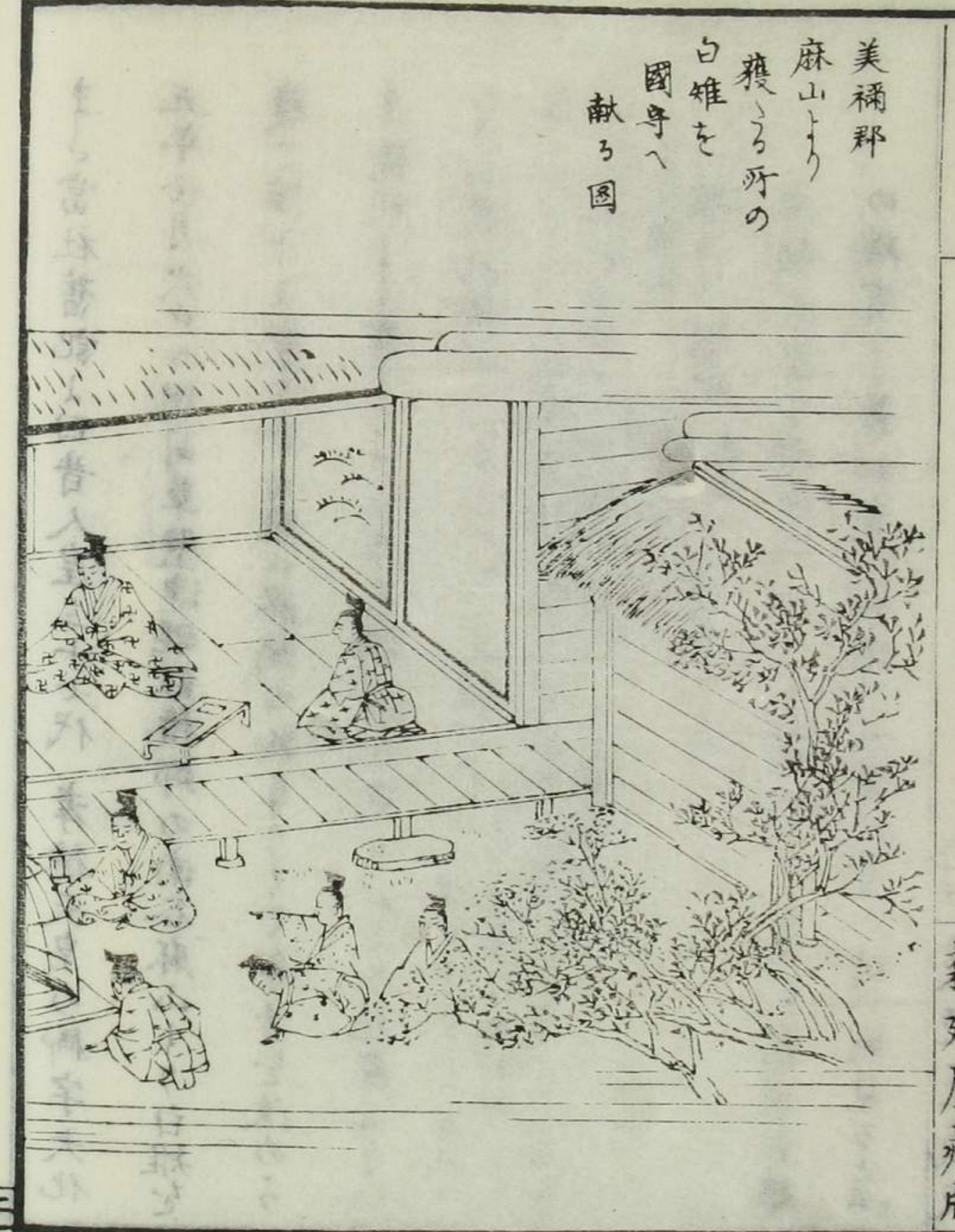
孝徳天皇の御宇此山より白雉出たり是則朝家白雉  
の瑞有し最初より白雉ハ王者仁聖の時ハ則見ると云

三十五  
三十九  
炊煙屋藏版



三行  
加  
一  
取  
西  
屋  
藏  
版

美禰郡  
麻山より  
獲る所の  
白雉を  
國寺へ  
献る圖



美禰郡  
麻山より  
獲る所の  
白雉を  
國寺へ  
献る圖

國家の祥瑞あり故に年号を白雉と改め長門國三年の調役をゆるし國司に大山といふ位階を授せらるゝとあり鷹を穴戸の境に放つことを禁むとあり白雉を復此山へ放ちて其生を遂しめむるを瑞物の中より羽毛の類ハ山野よりれちてその生を遂しめむふことハ令條にも見えたり

日本紀孝徳

天萬豐日天皇白雉元年春二月庚午朔戊寅穴戸國司草壁連醜經獻白雉曰國造首之同族誓正月九日於麻山獲焉於是問諸百濟君曰後漢明帝永平十一年白雉在所見焉云々

中畧甲申朝廷隊仗如元會儀左右大臣百官人等為四列於紫門外以栗田臣飯虫等四人使執雉輿而在前去左右大臣乃率百官及百濟君豐璋其弟塞城忠勝高麗侍醫毛洛新羅侍學士等而至中庭使三國公麻呂猪名公高見三輪君麿德紀臣乎麻呂岐太四人代執雉輿而進殿前時左右大臣就執輿前頭伊勢王三國公麻呂倉臣小泉執輿後頭置於御座之前天皇即召皇太子共執而觀皇太子退而再拜使巨勢大臣奉賀曰公卿百官人等奉賀陛下以清平德治天下之故爰有白雉自西方出乃是陛下及至千秋萬歲云々中畧又詔而

日四方諸國郡等由天委付之故朕總臨而御寓今我親神祖之所知穴戸國中有此嘉瑞所以大赦天下改元自雉仍禁放鷹於穴戸境賜公卿大夫以下至于令吏各賜有差於是褒美國司草壁連醜經授大山并大給各有差復穴戸三年調役云下畧

修多羅山永福寺 圓覺院と号し椿社の封内ありて當社の別當あり當寺ハ萩古寺の一負ありて満願寺ニ属し開山ハ阿闍梨知覺有快中興ハ法印快英玄長といふ本尊不動明王ハ行基并の作りて并ニ文珠并を安ん

相傳ふむく一延喜年中逆髪皇子當地へ辻幸せしめて法心となりむひ一字の精舎をいとなみて念護佛不動文珠の二尊を安んじて世塵をさけむ折々浮雲の僧沙門知覺阿闍梨此草菴を訪らひて浮世のさうも互にこと語りひ終ニ一字を建てる一むひとこそ夫より久しく廢壞して就中天台ニ宗風を轉じしと天正年間真言沙門快英法印來りて再興せり是より椿社の別當と云々ハ則鎌倉鶴カ岡永福寺を模擬せらむのちりとを

湖景山西福寺 同所より東へ少一行てあり浄土宗ありて

龍昌院は属に本尊阿弥陀如来ハ聖徳太子の作開山の念  
蓮社專譽良都和尚にて承應年中の建立あり本堂より  
掲る所の扁額ハ寶鏡寺の宮の真跡にて法皇の御冠櫓  
扇まゝハ中将姫蓮糸織の曼陀羅ハともに寶庫に藏む  
萬年山福昌寺 同所より又東よりあり禪宗にて京都妙心  
寺に属し本尊ハ聖觀世音并にて開山を劔舟和尚といふ  
相傳ふ山田村川上の農民等打擧りて建立せし寺刹といふ  
いろある所謂ありらん寺記廢れて詳らざるは項ハ九天貞  
の間ありとそいへり

茶臼山 同所上より聳へたる山をいふ往昔大内家旗下岩成  
豊後守城跡といひ傳へり今猶山頭は礎石井筒存こころか  
ここに残りてありやと絶頂の大松一株ハ所打入の已降山  
の姿見らめ甲斐よき為として祖式守兵衛某にて栽させむ  
所ありと或書いり



八江菽名所圖画二之卷終

八江菽名所圖画二之卷終

山子... 持首大内... 下... 菽...

